

《販わい分野》

文化スポーツ振興部

2023年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	文化振興課	歳出目名	文化振興費
				事業類型	a.施設所管型

1.組織概要

組織の使命	◆誰もが文化芸術に親しめるよう、市民の文化芸術活動振興と環境づくりに取り組みます。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトにより、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。	取組自体の自治体等	◆20歳を祝う式典の企画については、他自治体も実行委員会を発足して進めているところが多い中、二十祭まちだ実行委員は公募のみで集まった人で形成されており、2023年度は18名が登録しました。SNSを活用した情報発信を行い、当日の企画もオンラインを活用しました。◆町田市が所有する工芸作品の中でも、とくにボヘミアングラスと東南アジア陶磁器のコレクションは、質、量ともに国内トップレベルです。
所管事務	◆文化振興計画に関する事 ◆文化振興のための事業に関する事 ◆芸術家支援に関する事 ◆町田市立博物館に関する事 ◆町田市民ホールに関する事 ◆鶴川緑の交流館に関する事 ◆町田市フォトサロンに関する事 ◆文化施設の整備に関する事 ◆成人式(二十祭まちだ)に関する事 ◆国際交流に関する事 ◆町田市文化・国際交流財団との連絡調整に関する事 ◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトに関する事		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

① 成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆文化芸術の持つチカラをまちの活性化に活かし、時代や環境の変化に即した文化施策を戦略的に推進していくため、市民の意見を聞きながら(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画の策定を進めていく必要があります。◆(仮称)国際工芸美術館の工事着手前に近隣の方々へ工事説明会を行うなど、引き続き丁寧な説明と対話を続けながら整備を進める必要があります。◆パークミュージアムの実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、(仮称)国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取組み」および取組み状況

短期的な取組み(1~2年)		中長期的な取組み(3~5年)	
取組状況	△	◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定に向け、市民意識調査アンケート及び子どもセンター聞き取り調査を実施し、町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会を3回実施しました。◆博物館主催の館外展示や体験講座を実施し、市民に工芸の魅力を伝えました。◆近隣住民や市民に丁寧な説明を続けるとともに、(仮称)国際工芸美術館の適切な工事発注に向けCM(コンストラクションマネジメント)業務を行いました。	◆策定した(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画をもとに文化施策を推進していきます。◆国際版画美術館の改修工事着手前に(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟を完成させ、切れ目なく制作・体験の場を提供します。

3.事業の成果

① 成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
文化芸術プロモーションのインスタグラムのフォロワー数	人	目標	-	950	1,050	1,300	1,500	2022年1月からアカウントを引き継いだため、2021年12月までは、文化プログラムとしてのフォロワー数
		実績	890	1,013	1,197		(2026年度)	
体験講座の実施回数	回	目標	34	46	49	49	49	町田市立博物館が主催するアウトリーチ活動の一環である体験講座の実施回数
		実績	34	49	49		(2026年度)	
芹ヶ谷公園でのイベント実施時の満足度	%	目標	80	80	80	80	80	芹ヶ谷公園でのイベントに参加した人の満足度
		実績	100	99.5	98.8		(2026年度)	

② 成果指標およびその他成果の説明

◆文化芸術プロモーションとして文化芸術情報を発信していくために、2023年度は、インスタグラムアカウントにて、文化芸術情報を152件発信し、フォロワー数が1,013人から1,197人となり、184人増加しました。◆(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟において実施する工芸体験プログラムを見据えて、博物館主催で2023年度に市内各所で工芸に関する体験講座を49回実施しました。さらに、館外展示を2回実施しました。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”プロジェクトについて目ざす将来像の実現に向けて、公園を活用した機運醸成イベントを実施し、多くの方に満足いただきました。

4.財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目	2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
人件費	167,693	174,349	175,333	984	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	3,243	8,555	7,262	△ 1,293	保険料	0	0	0	0
物件費	410,046	433,741	454,015	20,274	国庫支出金	9,795	10,000	0	△ 10,000
うち委託料	387,678	412,350	431,437	19,087	都支支出金	10,308	40,672	52,640	11,968
維持補修費	2,532	12,777	17,743	4,966	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	30,585	31,034	21,750	△ 9,284	その他	5,729	5,050	4,625	△ 425
減価償却費	144,536	144,563	190,224	45,661	行政収入 小計(a)	25,832	55,722	57,265	1,543
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 771,593	△ 757,847	△ 826,540	△ 68,693
賞与・退職手当引当金繰入額	42,033	17,105	24,740	7,635	金融収支差額(d)	△ 7,610	△ 6,956	△ 9,726	△ 2,770
行政費用 小計(b)	797,425	813,569	883,805	70,236	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 779,203	△ 764,803	△ 836,266	△ 71,463
特別費用(g)	3,449	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	0
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 3,449	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	△ 782,652	△ 764,803	△ 836,266	△ 71,463

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	町田市民ホール及び鶴川緑の交流館ホール等指定管理委託料 345,999千円 (仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計業務委託 42,735千円 など	一般財団法人町田市文化・国際交流財団補助金 19,000千円 芹ヶ谷公園“芸術の杜”パークミュージアム整備事業体験講座謝礼 1,786千円 町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会委員謝礼 337千円 など
主な増減理由	町田市民ホール及び鶴川緑の交流館ホール等指定管理委託料が32,200千円増加。(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計業務委託が24,420千円増加 など	町田市文化芸術活性化事業補助金がなくなったことにより、10,000千円減少。町田市文化芸術のまちづくり計画策定懇談会委員謝礼が新たに337千円増加 など
勘定科目	維持補修費	都支支出金
決算額の主な内訳	鶴川緑の交流館ホール プロジェクター交換修繕 5,995千円 本町田遺跡公園弥生住居修繕 5,280千円 町田市民ホール舞台スピーカー修繕 1,973千円 など	子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金 50,000千円 東京都文化財保存事業費補助金 2,640千円
主な増減理由	鶴川緑の交流館ホールのプロジェクター修繕 5,995千円増加。町田市民ホールのスピーカー修繕 1,973千円増加 など	子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業補助金が13,218千円増加。東京都文化財保存事業費補助金の交付額が1,250千円減少

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	133,203	136,874	3,671	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	118,642	120,720	2,078	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	4,027,396	3,855,349	△ 172,047	賞与引当金	14,561	16,154	1,593
		土地	644,088	644,088	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	5,720,158	5,738,218	18,060	固定負債	1,488,923	1,367,793	△ 121,130
		建物減価償却累計額	△ 2,336,850	△ 2,526,957	△ 190,107	地方債	1,342,265	1,221,545	△ 120,720
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	146,658	146,248	△ 410
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	1,622,126	1,504,667	△ 117,459
		有形固定資産	0	0	0	純資産	3,399,624	3,407,305	7,681
		土地	0	0	0				
		工作物(取得価額)	0	0	0				
		工作物減価償却累計額	0	0	0				
		無形固定資産	0	0	0				
	建設仮勘定		107,371	150,106	42,735				
その他の固定資産		886,983	906,517	19,534	純資産の部合計	3,399,624	3,407,305	7,681	
資産の部合計		5,021,750	4,911,972	△ 109,778	負債及び純資産の部合計	5,021,750	4,911,972	△ 109,778	

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	建設仮勘定	その他の固定資産
決算額の主な内訳	町田市民ホール 2,696,795千円 鶴川緑の交流館 2,841,939千円 町田市民博物館 139,000千円 など	(仮称)町田市立国際工芸美術館実施設計業務委託 150,106千円	所蔵芸術文化資料 853,400千円 資料収集基金 50,000千円 町田市民ホール照明用機器 117千円 など
主な増減理由	鶴川緑の交流館屋上笠木改修工事により18,060千円増加。	(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計業務委託により42,735千円増加。	基金からの資料買戻しにより14,700千円増加。資料受贈により4,950千円増加。減価償却により、116千円減少。

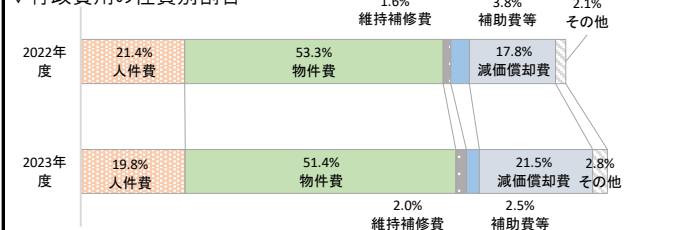
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	57,265	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	702,125	社会資本整備等投資活動支出	57,435	財務活動支出	118,642
行政サービス活動収支差額(a)	△ 644,860	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 57,435	財務活動収支差額(c)	△ 118,642
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 820,937
				一般財源充当調整額	820,937

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



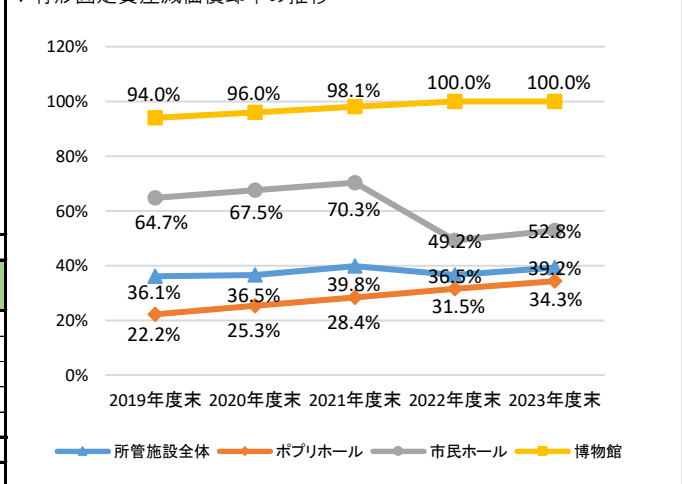
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
文化振興課管理業務	3.2			1.2		4.4	4.5
指定管理業務	1.7					1.7	1.1
文化振興業務	2.8			0.4		3.2	1.8
博物館業務	2.8			0.5	0.7	4.0	4.0
その他業務	6.5			1.9	0.8	9.2	10.0
2023年度 歳出目 合計	17.0	0.0	0.0	4.0	1.5	22.5	21.4
2022年度 歳出目 合計	17.0	0.0	0.0	3.2	1.2	21.4	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定に向け、文化芸術市民意識調査を行い、909人から回答がありました。また子どもセンター聞き取り調査を行い、145人から意見を伺いました。懇談会において3回意見を伺い、これら意見を計画策定に反映しました。◆(仮称)国際工芸美術館整備工事におけるCM(コンストラクションマネジメント)業務のほか、(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟基本・実施設計、パークミュージアムの実現に向けた取り組みを行い、機運醸成を図りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画策定のための業務委託を2023年度から実施した結果、当該事業にかかる人員数(その他業務)は0.8人減少しました。◆新型コロナウイルス感染症が5類に位置付けられたことにより、南アフリカ大使館との交流イベントを再開したほか、二十祭まちだを従前の規模に戻して実施した結果、文化振興業務の人員数は1.4人増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画を策定するにあたっては、町田市の文化芸術をよく把握する必要があります。◆(仮称)国際工芸美術館の工事着手前に近隣の方々へ工事説明会を行うなど、引き続き丁寧に説明しながら整備工事を進める必要があります。◆パークミュージアムの実現に向けて、公園や美術館の魅力等を広く発信し、(仮称)国際工芸美術館の開館にあたっては、多くの市民、とりわけ子どもたちに工芸美術の魅力が伝わるような事業を実施していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆2025年度末に(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画の策定を完了します。◆引き続き、町田市立博物館主催の館外展示・体験講座を実施します。◆民間事業者の経験や技術を活用し、美術館と公園が密接に連携する、新たな運営体制を構築します。	◆(仮称)町田市文化芸術のまちづくり計画のもと、文化施策を推進します。◆国際版画美術館の改修工事着手前に(仮称)公園案内棟/喫茶/版画工房/アート体験棟を完成させ、切れ目なく制作・体験の場を提供します。◆(仮称)国際工芸美術館の開館に向けて、学校連携事業を推進します。

2023年度 事業別行政評価シート

部 名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	博物館事業
事業類型	4:その他型		

1.事業概要

事業目的	博物館事業の目的は、価値のある資料を収集・保存し、綿密な調査・研究に基づいた魅力ある展覧会を企画・開催することや、教育普及活動をはじめ関連する諸事業を実施することにより、市民が文化・芸術に親しみ、好奇心を満足させながら教養を高めることができる機会を提供することです。					
基本情報	根拠法令等	町田市立博物館条例				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立博物館
	有形固定資産減価償却率	98.0%	100.0%	100.0%	建設年月日	1973年3月31日

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果及び財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆工芸美術資料のインターネット上でのデータ公開に向けて、データの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆資料収集基金50,000千円のうち33,390千円の買戻しを行い、博物館廃止までに計画的に現金化する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆インターネット上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。		◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を実施します。あわせて、一部の作品の3Dデータ化と公開も検討します。	
◆資料収集基金からの資料買戻しを計画的に進めて、(仮称)国際工芸美術館の開館準備を行います。		◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。	
取組状況	○	◆工芸美術資料について、2022年度に寄贈を受けた116件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。	
		◆資料収集基金50,000千円のうち14,700千円の買戻しを行いました。	
		◆博物館建物・設備の維持管理に努めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設の修繕費	円	目標	-	-	-	-	-	修繕費の年間合計額
		実績	969,886	2,086,370	612,040			
施設の光熱水費	円	目標	-	-	-	-	-	光熱水費の年間合計額
		実績	2,477,947	2,762,532	2,440,494			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆老朽化による故障が比較的少なく、2023年度は修繕費が減少しました。
- ◆電気料金、水道料とも減額となり光熱水費が減少しました。
- ◆石川県能登島ガラス美術館で「町田市立博物館所蔵 ガラス名品展」が開催されたほか、富山市ガラス美術館、箱根ガラスの森美術館、郡山市立美術館などに博物館の所蔵作品を貸し出しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	25,868	32,733	31,283	△ 1,450	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	41,139	37,341	38,012	671		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	21,606	19,178	20,425	1,247		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	970	2,086	612	△ 1,474		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	181	232	240	8		その他	1,165	88	28	△ 60
	減価償却費	2,780	2,780	0	△ 2,780		行政収入 小計(a)	1,165	88	28	△ 60
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 71,478	△ 86,550	△ 72,927	13,623
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,705	11,466	2,808	△ 8,658		金融収支差額 (d)	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	72,643	86,638	72,955	△ 13,683		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 71,478	△ 86,550	△ 72,927	13,623
特別費用 (g)		893	0	0	0	特別収入 (f)		9,201	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)		8,308	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)		△ 63,170	△ 86,550	△ 72,927	13,623

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目		物件費		維持補修費	
決算額の主な内訳	総合管理委託料	13,914千円		町田市立博物館空調機修繕 385千円	
	用地借上料	12,900千円		町田市立博物館ドアホン修繕 100千円	
主な増減理由	駆除・消毒委託料	1,682千円 など		町田市立博物館休憩室畳修繕 55千円 など	
		2022年度に寄贈を受けたもの等の撮影で枚数が増えたため、館蔵作品写真撮影委託が1,308千円増加。2023年2月に契約先を変更し、電気料金単価が下がったこと等による光熱水費の323千円減少 など		大きな修繕が少なかったため、1,474千円減少。	
勘定科目		補助費等		その他(行政収入)	
決算額の主な内訳	町田市立博物館資料収集委員会委員謝礼	130千円		物品売払収入 27千円	
	所蔵作品の修復計画協力謝礼	60千円		古紙売払代 1千円	
主な増減理由	寄贈資料評価謝礼	20千円 など		図録販売数が減り、物品売払収入が58千円減少 など	
		2023年度は所蔵作品の修復計画協力謝礼で60千円増加。資料収集委員会の委員謝礼が22千円減少。寄贈資料評価謝礼が30千円減少 など			

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
延床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	1,413	51,631	△ 9,684	行政費用が減少したことにより、2022年度に比べて9,684円減少しました。
		2022	1,413	61,315	9,905	
		2021	1,413	51,410	△ 25,354	
		2023				
		2022				
		2021				

④貸借対照表

(単位:千円)

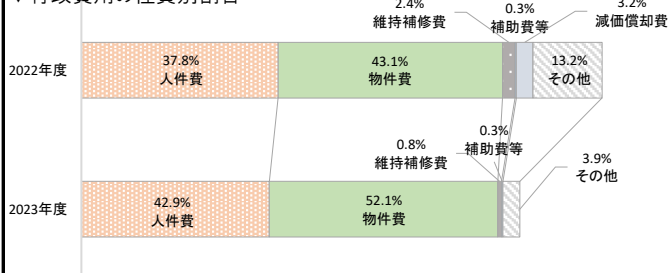
勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			2,497	2,615	118
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			0	0	0
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	賞与引当金			2,497	2,615	118
		土地		0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)	139,000	139,000	0	固定負債			25,372	24,084	△ 1,288
		建物減価償却累計額	△ 139,000	△ 139,000	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金			25,372	24,084	△ 1,288
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	負債の部合計			27,869	26,699	△ 1,170
		有形固定資産		0	0	純資産			855,881	876,701	20,820
		土地		0	0						
		工作物(取得価額)		0	0						
		工作物減価償却累計額		0	0						
	建設仮勘定		0	0	0						
	その他の固定資産		883,750	903,400	19,650	純資産の部合計			855,881	876,701	20,820
資産の部合計			883,750	903,400	19,650	負債及び純資産の部合計			883,750	903,400	19,650

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	その他の固定資産	
決算額の主な内訳	市立博物館建物 139,000千円	所蔵芸術文化資料 853,400千円 資料収集基金 50,000千円	特になし
主な増減理由	増減なし	基金からの資料買戻しにより14,700千円増加。 受贈により4,950千円増加。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



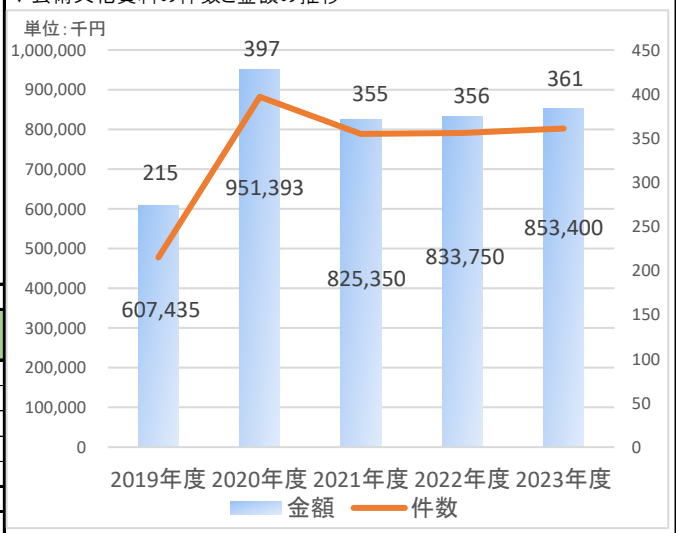
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
博物館管理事務	2.8			0.3	0.7	3.8	3.6
博物館展示事業				0.1		0.1	0.3
博物館普及事業	0.2			0.1		0.3	0.1
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	3.0	0.0	0.0	0.5	0.7	4.2	4.0
2022年度 特定事業 合計	2.9	0.0	0.0	0.5	0.6	4.0	

6.個別分析

▽芸術文化資料の件数と金額の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆工芸美術資料4,487件のうち、2022年度に新たに増えた受贈分116件の収蔵品管理データへの反映を完了しました。
- ◆資料収集基金から14,700千円の買戻しを行いました。
- ◆工芸美術資料確認調査が終了し、博物館建物・設備の維持管理経費が主な費用となっています。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆老朽化による故障が比較的少なく、2023年度は修繕費が減少しました。
- ◆電気料金、水道料とも減額となり光熱水費が減少しました。
- ◆貴重な工芸美術資料を適切に活用するため、資料の修復計画を作成しました。

- ◆工芸美術資料のインターネット上でのデータ公開に向けて、データの再確認と整理を行っていく必要があります。
- ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動が完了するまでは、引き続き博物館建物・設備の維持管理に努めます。
- ◆資料収集基金50,000千円のうち18,690千円の買戻しを行い、博物館廃止までに計画的に現金化する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆インターネット上でのデータ公開に向けて、工芸美術資料の収蔵品管理データの再確認と整理を行います。 ◆資料収集基金からの資料買戻しを計画的に進めて、(仮称)国際工芸美術館の開館準備を行います。	◆工芸美術資料について、所蔵作品目録の代替として、インターネット上でのデータ公開を実施します。 ◆(仮称)国際工芸美術館が開館し、工芸美術資料の移動完了後、建物を解体し、土地を返還します。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	フォトサロン事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市民に写真その他の文化芸術に関する活動の場を提供し、文化芸術の振興に寄与するため、展示会の開催や貸出施設等の利用に関する業務を行います。						
基本情報	根拠法令等 町田市フォトサロン条例、町田市フォトサロン条例施行規則						
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市フォトサロン	
	利用料金収入 (単位:千円)	591	722	725	建設年月日	1975年4月1日	
	受益者負担比率	3.8%	4.9%	5.4%		2021年度	2022年度
					有形固定資産減価償却率	92.0%	94.0%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆フォトサロンを含め、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来場者数が増加していることから、引き続き園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。
- ◆園外での事業を拡充することなど、展示以外の写真の魅力を伝えたり、愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。
- ◆建物が築40年を超えたため、今後、維持補修費が増大する可能性があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。		◆2023年度中の改定を予定している『町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画』の目指す将来像に沿った施設の運営を進めることで、園全体の魅力を向上させる一役を担うとともに、フォトサロンの将来の在り方について検討を行います。	
◆園外で講座や撮影会等を積極的に開催します。			
取組状況	○	◆企画展や講座等の開催情報を、SNSや町田薬師池公園四季彩の杜公式ホームページに積極的に掲載し、施設の魅力を伝えるための情報発信を行いました。◆野津田公園でばら撮影会、忠生公園で写真撮影講座を開催し、撮影した作品の展示会をフォトサロンで開催しました。◆町田薬師池公園四季彩の杜各施設と連携してスタンプラリーやワークショップを開催する等、園全体の魅力を高める事業を実施しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	37,000	37,000	37,000	37,000	37,000	町田市フォトサロンの入場者数
		実績	31,758	36,071	33,123		(2026年度)	
企画事業数	回	目標	18	18	18	18	18	指定管理者が企画・立案した写真等に関する事業数
		実績	25	26	27		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆町田薬師池公園四季彩の杜各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信を行いました。入場者数は、2022年度と比べ2,948人減少(△8.2%)し、目標には届きませんでした。
- ◆企画事業数は、2022年度と比べ1回増加(+3.8%)し、目標を上回りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	3,627	2,140	2,162	22	地方税	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	物件費	10,636	10,675	10,675	0	国庫支出金	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	うち委託料	10,636	10,675	10,675	0	都支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	維持補修費	0	2,024	0	△ 2,024	分担金及負担金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	補助費等	13	0	0	0	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 15,721	△ 15,031	△ 13,226	1,805							
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,458	192	389	197	金融収支差額 (d)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	行政費用 小計 (b)	15,734	15,031	13,226	△ 1,805	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 15,721	△ 15,031	△ 13,226	1,805							
特別費用 (g)	65	0	0	0	特別収入 (f)	0	1,158	0	△ 1,158								
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 65	1,158	0	△ 1,158	当期収支差額 (e)+(h)	△ 15,786	△ 13,873	△ 13,226	647								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	勘定科目	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	維持補修費 0円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	設備修繕が発生しなかったことにより、2,024千円減少。	主な増減理由	
勘定科目	勘定科目	勘定科目	勘定科目
決算額の主な内訳	特になし	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
施設利用者1人あたりコスト	人	2023	33,123	399	△ 18	行政費用が減少したことにより、18円減少(△4.3%)しました。
		2022	36,071	417	△ 78	
		2021	31,758	495	△ 129	
開館1日あたりコスト	日	2023	305	43,364	△ 5,280	行政費用が減少したことにより、5,280円減少(△10.9%)しました。
		2022	309	48,644	△ 5,799	
		2021	289	54,443	△ 6,690	

④貸借対照表

(単位:千円)

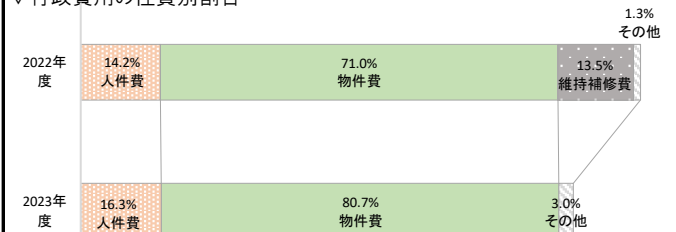
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			192	207	15	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			0	0	0	賞与引当金			192	207	15
		土地			0	0	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)			0	0	0	固定負債			1,992	2,047	55
		建物減価償却累計額			0	0	0	地方債			0	0	0
		工作物(取得価額)			0	0	0	退職手当引当金			1,992	2,047	55
		工作物減価償却累計額			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	負債の部合計			2,184	2,254	70
		有形固定資産			0	0	0	純資産			△ 2,184	△ 2,254	△ 70
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
		建設仮勘定			0	0	0						
		その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計			△ 2,184	△ 2,254	△ 70
資産の部合計			0	0	0	負債及び純資産の部合計			0	0	0		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)		
決算額の主な内訳	フォトサロンの建物は、公園緑地課の薬師池四季彩の杜事業に計上しています。	特になし	特になし
主な増減理由			

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



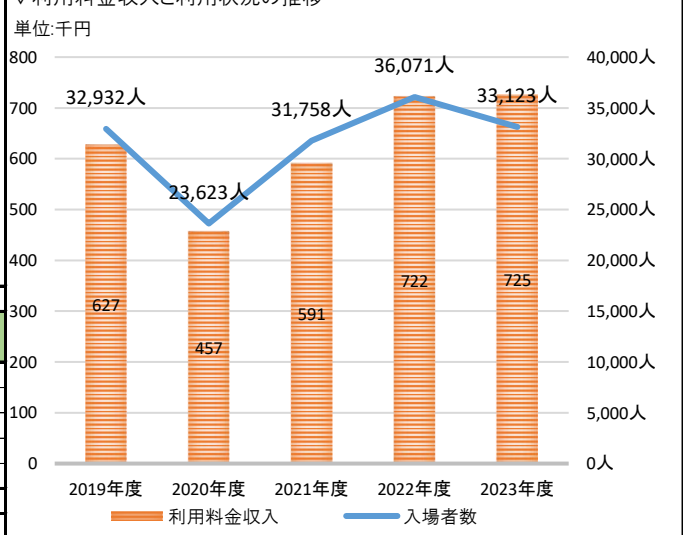
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
						合計	合計
フォトサロン管理事務	0.2					0.2	0.2
フォトサロン選定替事務						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
2022年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆薬師池公園全体の来園者数の減少に伴い、2022年度と比較して入場者数は2,948人減少(△8.2%)しました。
- ◆企画事業は27事業実施し、2022年度と比べ1回増加(+3.8%)し、目標を上回りました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆行政費用については、設備修繕が発生しなかった(2,024千円減少)こと等により、全体としては2022年度と比べて1,805千円減少(△12.0%)しました。一方で、施設利用料等収入は2022年度と比べて33千円増加(+5.6%)、利用料金収入全体としても3千円増加(+0.4%)しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆フォトサロンの入場者数は減少しましたが、町田薬師池公園四季彩の杜全体の来場者数はほぼ横ばいで推移していることから、引き続き園内各施設と連携し、施設の魅力を積極的にPRする情報発信が必要です。
- ◆園外での事業を拡充することなど、展示以外の写真の魅力を伝えたり、愛好家の裾野を広げ、展示室の利用につなげる取り組みが必要です。
- ◆建物が築40年を超えたため、今後、フォトサロンの在り方の検討が必要です。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆SNSや町田薬師池公園四季彩の杜ホームページを活用して、引き続き施設の魅力を伝えるための情報発信を行います。 ◆園外で講座や撮影会等を積極的に開催します。	◆『町田薬師池公園四季彩の杜魅力向上計画』の目指す将来像に沿った施設の運営を進めることで、園全体の魅力を向上させる一役を担うとともに、フォトサロンの将来の在り方について検討を行います。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	市民ホール事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市民の文化の向上と福祉の増進に寄与するため、文化の提供事業や文化活動の支援および市民参加型事業を実施するとともに、市民ホールの貸出施設の利用に関する業務を行います。					
基本情報	根拠法令等	町田市民ホール条例、町田市民ホール条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市民ホール
	利用料金収入 (単位:千円)	22,527	17,638	108,785	建設年月日	1977年2月24日
	受益者負担比率	8.9%	9.6%	26.8%		2021年度 2022年度 2023年度
					有形固定資産減価償却率	70.3% 49.2% 52.8%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆引き続き事業を積極的に実施するとともに、施設のPRを行うことで、入場者数や施設利用率を新型コロナウイルス感染症拡大前の数値まで回復させる必要があります。

◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆市民ホールをより多くの人に知ってもらうため、市内各地で貸出施設の積極的なPRを行います。		◆市民ホールの今後のあり方について、2024年度策定予定の(仮称)文化芸術のまちづくり計画を踏まえて検討を進めます。	
◆様々な団体と連携して良質な公演を実施することで、入場者数の向上を図ります。			
取組状況	○	◆上半期に開始したSNSを活用し施設のPRを積極的に行いました。	
		◆NHKの公開収録公演及び宝くじ文化事業公演を実施し、入場者数の向上に取り組みました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	33,133	4,480	59,000	59,000	59,000	市民ホールで実施される事業の入場者数
		実績	21,121	7,275	59,987		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	70	66	68	70	74	貸出施設の利用率
		実績	48	49	54		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆改修工事完了による施設再開で入場者数及び施設利用率はともに増加しました。休館中のアウトリーチ事業の効果やSNSを活用した施設のPRを積極的に行ったことで、入場者数は1ヶ月平均で比較しても、2022年度より37.4%増加しました。

◆市内事業者への施設PR及びプロのアーティストと市内小中学生とが共演する事業の実施等市民への働きかけを意識した取組を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目					2021年度	2022年度	2023年度	差額
					A	B	B-A							A	B	B-A	
行政費用	人件費	7,135	3,912	6,177	2,265	行政収入	地方税	0	0	0	0						
	物件費	168,889	156,627	184,091	27,464		国庫支出金	5,294	0	0	0	0					
	うち委託料	168,889	156,627	183,449	26,822		都支出金	0	0	0	0	0					
	維持補修費	198	0	2,853	2,853		分担金及負担金	0	0	0	0	0					
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0	0					
	補助費等	5,294	0	0	0		その他	0	0	0	0	0					
	減価償却費	50,834	50,834	100,893	50,059		行政収入 小計(a)	5,294	0	0	0	0					
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 229,108	△ 211,725	△ 297,175	△ 85,450						
	賞与・退職手当引当金繰入額	2,052	352	3,161	2,809		金融収支差額 (d)	△ 188	△ 167	△ 3,574	△ 3,407						
	行政費用 小計 (b)	234,402	211,725	297,175	85,450		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 229,296	△ 211,892	△ 300,749	△ 88,857						
特別費用 (g)	151	0	0	0	特別収入 (f)	0	2,596	0	0	2,596							
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 151	2,596	0	△ 2,596	当期収支差額 (e)+(h)	△ 229,447	△ 209,296	△ 300,749	△ 91,453								

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 183,449千円 備品購入費 642千円	決算額の主な内訳	舞台スピーカー修繕 1,973千円 空調設備修繕 880千円
主な増減理由	改修工事後の施設再開に伴い指定管理委託料が28,564千円増加。 音響設備購入により642千円増加 など	主な増減理由	緊急の修繕が発生したことにより、2,853千円増加。
勘定科目	減価償却費	勘定科目	
決算額の主な内訳	減価償却費(建物) 100,777千円 減価償却費(備品) 116千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	改修工事により建物の資産価値が上がったため、50,059千円増加。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2023	59,987	4,954	△ 24,149	行政費用が増加した一方、入場者数が施設再開により52,712人増加(+724.6%)したため、24,149円減少(△83.0%)しました。
		2022	7,275	29,103	18,005	
		2021	21,121	11,098	△ 102,855	
開館1日あたりコスト	日	2023	335	887,090	△ 2,962,455	行政費用が増加した一方、開館日数は施設再開により280日増加(+509.1%)したため、2,962,455円減少(△77.0%)しました。
		2022	55	3,849,545	2,575,621	
		2021	184	1,273,924	341,773	

④貸借対照表

(単位:千円)

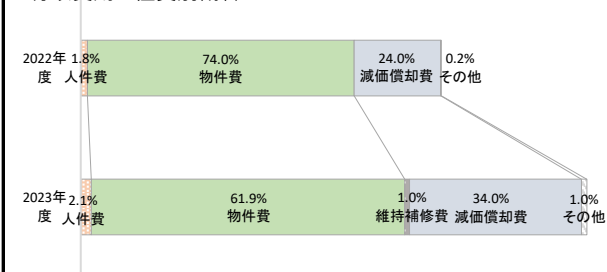
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			16,683	18,359	1,676	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			16,331	17,768	1,437	
							賞与引当金			352	591	239	
固定資産	事業用資産	有形固定資産			1,397,461	1,296,684	△ 100,777	その他の流動負債			0	0	0
		土地			0	0	0	固定負債			453,973	438,414	△ 15,559
		建物(取得価額)			2,696,795	2,696,795	0	地方債			450,333	432,564	△ 17,769
		建物減価償却累計額			△ 1,299,334	△ 1,400,111	△ 100,777	退職手当引当金			3,640	5,850	2,210
		工作物(取得価額)			0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
		工作物減価償却累計額			0	0	0	負債の部合計			470,656	456,773	△ 13,883
	インフラ資産	無形固定資産			0	0	0	純資産			927,038	840,028	△ 87,010
		有形固定資産			0	0	0						
		土地			0	0	0						
		工作物(取得価額)			0	0	0						
		工作物減価償却累計額			0	0	0						
		無形固定資産			0	0	0						
建設仮勘定			0	0	0								
その他の固定資産			233	117	△ 116	純資産の部合計			927,038	840,028	△ 87,010		
資産の部合計				1,397,694	1,296,801	△ 100,893	負債及び純資産の部合計				1,397,694	1,296,801	△ 100,893

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	照明用機器 117千円	改修のための借入 432,564千円	特になし
主な増減理由	減価償却により、116千円減少。	2024年度償還分を流動負債に振替したことにより、17,769千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



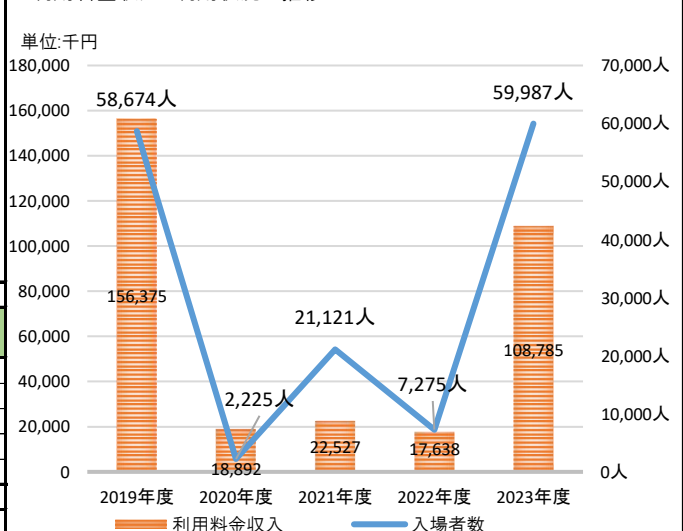
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	市民ホール管理事務	0.7					0.7	0.4
	市民ホール指定管理者選定事務						0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計		0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.4
2022年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆改修工事完了による施設再開で入場者数は52,712人増加しました。
- ◆NHKの公開収録公演等入場料が手頃で事業内容の質の高さに定評のある補助事業を3事業実施し、入場者の好評を得ました。
- ◆プロのアーティストと市内の小中学生とが共演する事業を2事業実施し、小中学生に舞台発表の機会を提供するとともに、市内からの集客の向上につなげることができました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆施設が休館から再開したことによる事業費の増加にともない指定管理料が2022年度から18.4%増加しました。
- ◆改修工事中のため緊急修繕が発生しなかった2022年度と比較して、音響設備及び空調設備のための施設修繕料2,853千円が増加しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫や、効果的な広報手段の検討を行うなど、入場者数及び施設利用率向上に向けた取組が必要です。
- ◆建物が建設されて約50年が経過したため、市民ホールの今後のあり方について検討していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆利用者数向上に向けた取組として、新しいジャンルやテーマを扱った事業について、検討・実施していきます。◆外郭団体と連携し、文化団体が施設を利用しやすい仕組みを構築することで、利用率の向上を図ります。◆個別の事業に有効な広報手段を活用し、集客力の向上を図ります。◆市内の文化施設のあり方検討のため、現状を把握していきます。	◆2027年度から新たな指定期間となる指定管理者の選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。

2023年度 事業別行政評価シート

2023年度 事業別行政評価シート				部名	文化スポーツ振興部	主管課名	文化振興課
歳出目名	文化振興費	特定事業名	鶴川緑の交流館事業	事業類型	1.施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市民の芸術文化の創造活動および地域的な共同活動その他の市民活動の推進を図り、もって魅力ある地域社会づくりに寄与するため、ホール等の施設および附属設備の貸し出しや市民の芸術文化の向上に資する事業を行います。					
基本情報	根拠法令等	町田市鶴川緑の交流館条例、町田市鶴川緑の交流館条例施行規則				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市鶴川緑の交流館
	利用料金収入 (単位:千円)	30,740	44,560	38,072	建設年月日	2012年9月27日
	受益者負担比率	10.6%	14.8%	12.7%		
					有形固定資産減価償却率	2021年度 28.4% 2022年度 31.5% 2023年度 34.3%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆2023年2月から町田市民ホールが利用を再開し、休館中の代替としての役割は終了しましたが、成果指標の目的を達成するため、引き続き施設利用率を維持増加させるとともに、入場者数をさらに増加させる必要があります。

◆開館11年目を迎え、施設設備の老朽化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆主催事業数を増やす他、集客力に実績のある公演の実施に加え、若年層向けといった公演ジャンルの工夫を行うなど、収益性を重視した事業の実施について検討・実施します。 ◆法令改正への対応や利用者の利便性向上のため、施設設備を更新します。		◆今後発生する設備更新・修繕に適切に対応するため、指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。	
取組状況	○ ◆主催事業数は2022年度からほぼ横ばいでしたが、ワークショップを中心とした子ども向けの体験型事業や人気声優の朗読等新しい顧客層の獲得に向けた取組を行いました。◆新しい法令に対応した仕様の音響設備に更新しました。また、施設利用者の利便性向上のため駐輪場の整備を行いました。◆設備更新・修繕対応について指定管理者及び関係部署と協議を行い、状況把握や優先順位づけを行いました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
入場者数	人	目標	9,674	12,910	16,100	16,100	16,100	鶴川緑の交流館で実施される事業の入場者数
		実績	7,301	6,919	14,531		(2026年度)	
施設利用率(平均)	%	目標	75	66	68	70	74	貸出施設(ホール、会議室等)の利用率
		実績	60	69	63		(2026年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆集客力を重視した事業や若年層向けといった公演ジャンルを工夫した事業を実施したことにより、2022年度と比較して、入場者数は増加しました。◆休館中の市民ホールの代替施設としての役割を終了したこと等により、施設利用率は減少しました。◆駐輪場を整備したことにより、施設利用者の利便性が向上しました。◆プレスリリースの積極的な活用やチラシを市内施設に配架するだけでなく周知対象者に直接送付することで、入場者数増加の取組を行いました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	6,095	3,966	7,567	3,601	地方税	0	0	0	0
物件費	148,200	158,914	163,822	4,908	国庫支出金	4,488	0	0	0
うち委託料	148,200	158,914	162,550	3,636	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	748	3,372	7,520	4,148	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	4,488	0	0	0	その他	4,500	4,500	4,500	0
減価償却費	88,411	88,438	86,820	△ 1,618	行政収入 小計(a)	8,988	4,500	4,500	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 240,878	△ 250,546	△ 265,869	△ 15,323
賞与・退職手当引当金繰入額	1,924	356	4,640	4,284	金融収支差額 (d)	△ 7,327	△ 6,703	△ 6,074	629
行政費用 小計 (b)	249,866	255,046	270,369	15,323	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 248,205	△ 257,249	△ 271,943	△ 14,694
特別費用 (g)	124	0	0	0	特別収入 (f)	0	1,589	0	△ 1,589
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 124	1,589	0	△ 1,589	当期収支差額 (e)+(h)	△ 248,329	△ 255,660	△ 271,943	△ 16,283

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 162,550千円 備品購入費 1,272千円	決算額の主な内訳	プロジェクター交換修繕 5,995千円 空調集中監視リモコン修繕 410千円 排煙窓点検修繕 377千円 など
主な増減理由	指定管理者が負担する修繕費の増加により、指定管理委託料が3,636千円増加。 音響設備購入により1,272千円増加。	主な増減理由	緊急修繕が多く発生したことにより4,148千円増加。
勘定科目	減価償却費	勘定科目	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	建物 86,820千円	決算額の主な内訳	広告掲載料(和光大学ポブリホール鶴川命名権料) 4,500千円
主な増減理由	舞台音響設備の減価償却が完了したため、1,618千円減少。	主な増減理由	増減なし

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
入場者1人あたりコスト	人	2023	14,531	18,606	△ 18,256	行政費用が増加した一方、入場者数が7,612人増加(+110.0%)したことにより、18,256円減少(△49.5%)しました。
		2022	6,919	36,862	2,638	
		2021	7,301	34,224	△ 275,691	
開館1日あたりコスト	日	2023	339	797,549	42,975	開館日数は微増しましたが、行政費用が増加したことにより、42,975円増加(+5.7%)しました。
		2022	338	754,574	△ 21,407	
		2021	322	775,981	△ 145,787	

④貸借対照表

(単位:千円)

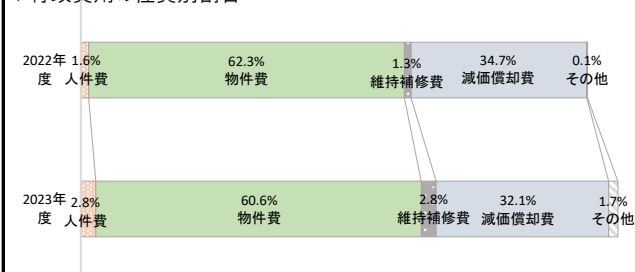
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債		101,962	102,963	1,001			
	不納欠損引当金		0	0	0		還付未済金	0	0	0			
	その他の流動資産		0	0	0		地方債	101,606	102,239	633			
固定資産	事業用資産	有形固定資産	2,355,605	2,286,845	△ 68,760	固定負債	賞与引当金	356	724	368			
		土地	398,424	398,424	0		その他の流動負債	0	0	0			
		建物(取得価額)	2,823,879	2,841,939	18,060		負債の部合計	889,672	790,908	△ 98,764			
		建物減価償却累計額	△ 866,698	△ 953,518	△ 86,820		地方債	885,981	783,742	△ 102,239			
		工作物(取得価額)	0	0	0		退職手当引当金	3,691	7,166	3,475			
		工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0			
	インフラ資産	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	991,634	893,871	△ 97,763				
		有形固定資産	0	0	0	純資産	1,363,971	1,392,974	29,003				
		土地	0	0	0								
		工作物(取得価額)	0	0	0								
固定資産	工作物減価償却累計額	0	0	0									
	無形固定資産	0	0	0									
	建設仮勘定	0	0	0									
その他の固定資産				0	0	0	純資産の部合計	1,363,971	1,392,974	29,003			
資産の部合計				2,355,605	2,286,845	△ 68,760	負債及び純資産の部合計	2,355,605	2,286,845	△ 68,760			

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	地方債(固定負債)	
決算額の主な内訳	建物取得 2,841,939千円	建設のための借入 783,742千円	特になし
主な増減理由	屋上笠木改修工事実施により、18,060千円増加。	2024年度償還分を流動負債に振替したことにより、102,239千円減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



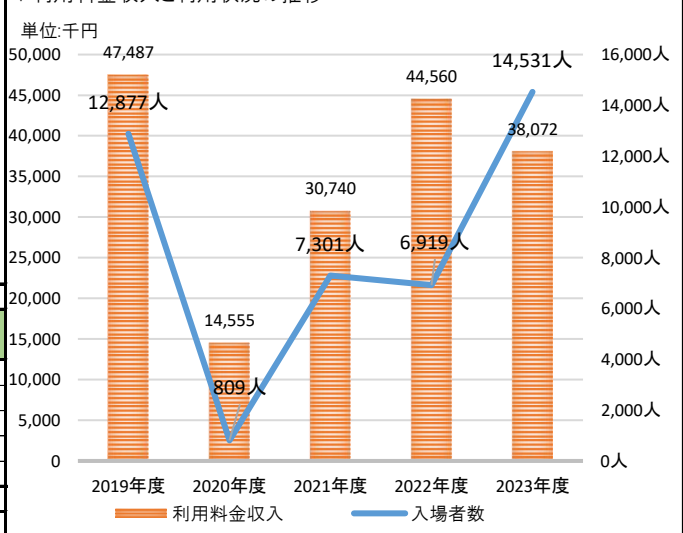
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
鶴川緑の交流館管理事務	0.9					0.9	0.4
鶴川緑の交流館選定替事務						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.4
2022年度 特定事業 合計	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆集客力を重視した事業や若年層向けといった公演ジャンルを工夫した事業を実施したことにより、2022年度と比較して、入場者数は110.0%増加しました。
- ◆カフェや図書館とテーマを共有したイベントを実施し、好評を博しました。
- ◆駐輪場の整備により、施設利用者の利便性が向上しました。
- ◆屋上笠木改修工事により雨漏り修繕とともに、足場を利用して高所の塗装及び劣化箇所の修繕を行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆指定管理者が負担する修繕費の増加により、指定管理委託料を3,636千円(+2.3%)増額しました。
- ◆広報媒体の拡充や周知対象の絞り込みといった工夫により、入場者数及びイベントへの参加率が好調でした。
- ◆舞台設備及び空調設備が経年劣化により故障が複数発生したこと、2022年度と比較して、維持補修費が倍増しました。開館して10年を経過したため、今後も同様の事態が発生する可能性があります。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き事業ジャンルの選定の工夫や、効果的な広報手段の検討を行うなど、入場者数及び施設利用率の向上に向けた取組が必要です。
- ◆開館10年が経過し、施設設備の老朽化が進行しているため、計画的な修繕を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆利用者数の向上に向けた取組として、カフェや図書館とのコラボ事業に加えて新しいジャンルやテーマを扱った事業及び体験型・参加型の事業について、検討・実施していきます。◆外郭団体と連携し、文化団体が施設を利用しやすくする仕組みを構築することで、利用率の向上を図ります。◆SNSやプレスリリースの活用等個別の事業に有効な広報手段を活用し、集客力の向上を図ります。	◆経年劣化によって発生する設備修繕について指定管理者や関係部署と連携し、状況把握や優先順位の判断等を計画的に行います。◆2027年度から新たな指定期間となる指定管理者の選定に向けて、課題整理や募集方法の検討を行います。

2023年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	スポーツ振興課	歳出目名	スポーツ振興費
				事業類型	a:施設所管型

1.組織概要

組織の使命	スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。	他自治体の取り組み等	◆町田市民のスポーツ実施率は63.9%(2023年度)となっており、東京都民のスポーツ実施率66.3%(2023年10月)を下回っています。 ◆町田市立陸上競技場は、都内でJ1リーグライセンスを取得している2つのスタジアムのうちの1つです。 ◆まちだサポーターズは、スポーツ祭東京2013(東京国体)を契機に発足し、活動を継続している全国でも珍しいスポーツボランティア団体です。
所管事務	◆体育施設の管理や整備に関すること ◆学校施設等のスポーツ開放に関すること ◆ホームタウンチーム(FC町田ゼルビア、ASVペスカドーラ町田)の支援に関すること ◆地域スポーツクラブの整備や支援に関すること ◆スポーツ大会の開催支援・スポーツに関する広報等のスポーツ振興に関すること		

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆スポーツ施設で行うスポーツ機会だけではなく、忙しい働き盛り・子育て世代の方でも取り組みやすい、時間や場所を問わないスポーツ機会の提供をしていく必要があります。◆ホームゲーム年間観戦者数は88,109人で、2021年度と比べて23,783人増加していますが、さらに観戦者を増やすためには、より一層認知度を向上していく必要があります。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」の活動延べ人数は2,600人で、2021年度と比べて228人増加しています。引き続き、スポーツへの関心やボランティア機運・モチベーションを維持していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆時間や場所を問わない、さまざまな世代に向けたスポーツ機会の提供をします。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」が、10周年を迎えた後も活動を継続しさらに活動を広げていけるように支援していきます。		◆「町田市スポーツ推進計画19-28」のアクションプランを実行し、多様なスポーツ機会を提供することで、市民のスポーツ実施率および「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合の向上を目指します。	
○	◆仕事の合間や通勤途中でも視聴しやすい動画を新たに作成・公開し、時間や場所を問わない運動機会の提供を行いました。 ◆各ホームタウンチームと連携し、チラシ配布、ポスター掲出、市HPへの掲載、SNS等で周知活動を行い、認知度向上に取り組みました。 ◆「まちだサポーターズ」のスキルアップのため、外部講師を招いた講習会を開催するなど、活動の支援を行いました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
週1回以上スポーツをする市民の割合	%	目標	-	-	-	-	70.0	週1回以上スポーツをする市民の割合 ※計画最終年度である2028年度までの達成目標
		実績	65.3	64.3	63.9		(2028年度)	
「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合	%	目標	-	-	-	-	95.0	「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合 ※同上
		実績	92.0	90.5	92.6		(2028年度)	
		目標						
		実績						

②成果指標およびその他成果の説明

◆子ども向けにボール遊びができる公園等を掲載したスポーツマップ作成や、様々な世代に対してスポーツをするきっかけづくりの教室開催等、するスポーツの機会を提供しましたが、スポーツに関する市民意識調査アンケートによると2022年度と比較し実施率が0.4ポイント減少しました。◆ホームタウンチームやアマチュアスポーツの試合等、市内でスポーツを観戦した割合は12.2%となり、2022年度に比べ3.2ポイント増加しました。◆ホームタウンチームのホームゲームでの活動や東京都主催の多摩自転車ロードレース等の大きなスポーツイベントがあったため、スポーツに関するボランティア活動を行った割合は3.7%となり、2022年度に比べ0.1ポイント増加しました。◆「する」「みる」「支える」で関わった市民の割合は2022年度に比べ2.1ポイント増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	85,009	104,956	121,597	16,641	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	6,843	8,783	13,237	4,454	保険料	0	0	0	0
物件費	576,237	669,004	704,709	35,705	国庫支出金	15,122	0	0	0
うち委託料	535,630	636,903	670,792	33,889	都支支出金	0	1,510	2,143	633
維持補修費	8,400	26,973	19,613	△ 7,360	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	5,545	7,880	8,264	384
補助費等	65,249	56,185	64,341	8,156	その他	5,690	5,589	5,093	△ 496
減価償却費	285,380	306,696	306,696	0	行政収入 小計(a)	26,357	14,979	15,500	521
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 1,007,085	△ 1,157,937	△ 1,223,075	△ 65,138
賞与・退職手当引当金繰入額	13,167	9,102	21,619	12,517	分担金及負担金(d)	△ 1,902	△ 2,011	△ 1,990	21
行政費用 小計(b)	1,033,442	1,172,916	1,238,575	65,659	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 1,008,987	△ 1,159,948	△ 1,225,065	△ 65,117
特別費用(g)	2,854	5,284	0	△ 5,284	特別収入(f)	0	20,748	0	△ 20,748
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 2,854	15,464	0	△ 15,464	当期収支差額(e)+(h)	△ 1,011,841	△ 1,144,484	△ 1,225,065	△ 80,581

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	総合体育館外2施設指定管理料 271,487千円 室内プール指定管理料 270,522千円 学校温水プール等総合管理業務委託 44,725千円 (仮称)町田木曽山崎パラアリーナ整備関連委託 20,790千円 など (仮称)町田木曽山崎パラアリーナの整備に関する委託契約を新たに締結したことにより、20,790千円増加。光熱水費の高騰により、総合体育館外2施設指定管理料が11,386千円増加 など	成瀬クリーンセンターテニスコート建屋軒天他改修工事 6,375千円 総合体育館メインアリーナ等改修工事 3,054千円 室内プール空調機交換修繕 1,980千円 クラブハウス維持補修費 1,553千円 など
主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート建屋改修工事に伴う休場期間中の利用料金収入を、営業補償料として補填したことにより、3,240千円増加 など	修繕規模の縮小により、7,360千円減少。
勘定科目	補助費等	都支支出金
決算額の主な内訳	町田市体育協会補助金 47,349千円 町田市子どもマラソン大会実施負担金 3,575千円 成瀬クリーンセンターテニスコートの休場に伴う営業補償料 3,240千円 など	区市町村スポーツ実施促進事業費補助金(地域スポーツ推進事業) 1,143千円 区市町村スポーツ実施促進事業費補助金(パラスポーツ推進事業) 1,000千円
主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート建屋改修工事に伴う休場期間中の利用料金収入を、営業補償料として補填したことにより、3,240千円増加 など	出前サッカー教室や出前フットサル教室が新たに補助対象となったこと等により、区市町村スポーツ実施促進事業費補助金のうち地域スポーツ推進事業が417千円、パラスポーツ推進事業が216千円増加。

③貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	還付未済金	84,681	101,530	16,849
	不納欠損引当金	0	0	0		賞与引当金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	75,579	91,044	15,465
固定資産	有形固定資産	8,553,978	8,247,282	△ 306,696	固定負債	賞与引当金	9,102	10,486	1,384
	土地	1,902,208	1,902,208	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	13,757,155	13,757,155	0		地方債	1,427,383	1,341,522	△ 85,861
	建物減価償却累計額	△ 7,266,053	△ 7,560,407	△ 294,354	地方債	退職手当引当金	1,335,847	1,244,802	△ 91,045
	工作物(取得価額)	275,501	275,501	0		その他の固定負債	91,536	96,720	5,184
	工作物減価償却累計額	△ 114,833	△ 127,175	△ 12,342		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計		1,512,064	1,443,052	△ 69,012
	インフラ資産	0	0	0	純資産	純資産	7,041,914	6,804,230	△ 237,684
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0					
固定資産	工作物減価償却累計額	0	0	0	純資産の部合計		7,041,914	6,804,230	△ 237,684
	無形固定資産	0	0	0	負債及び純資産の部合計		8,553,978	8,247,282	△ 306,696
	建設仮勘定	0	0	0					
	その他の固定資産	0	0	0					
資産の部合計		8,553,978	8,247,282	△ 306,696					

④貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場土地 806,105千円 市立総合体育館土地 764,504千円 など	総合体育館建物 6,675,172千円 室内プール建物 6,194,566千円 総合体育館駐車場 590,376千円 など	総合体育館メインアリーナ大型映像装置 117,700千円 木曽中学校校庭照明設備 40,376千円など
主な増減理由	増減なし	減価償却により、294,354千円の減少。	減価償却により、12,342千円の減少。

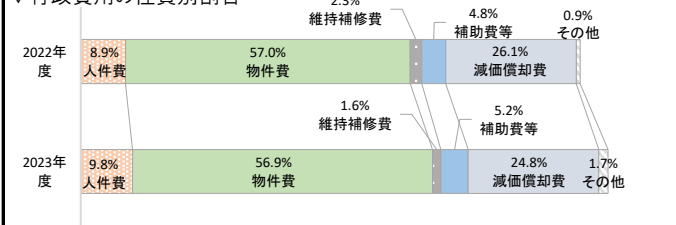
⑤キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	15,500	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	927,301	社会資本整備等投資活動支出	0	財務活動支出	75,579
行政サービス活動収支差額(a)	△ 911,801	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	0	財務活動収支差額(c)	△ 75,579
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 987,380
				一般財源充当調整額	987,380

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



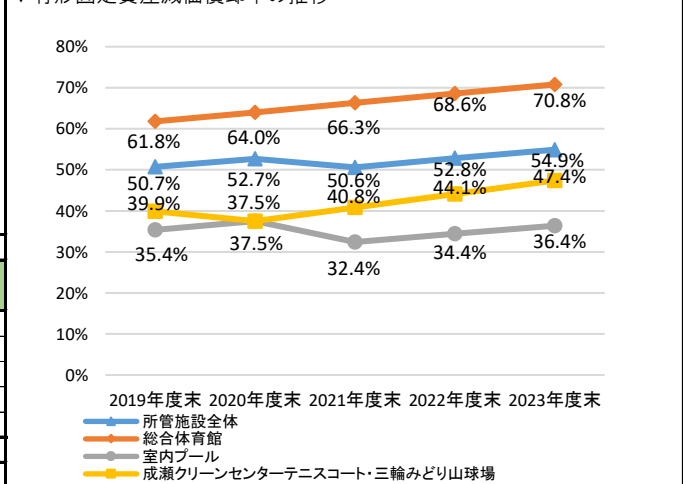
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
施設管理及び地域スポーツクラブ支援事務	2.3			0.5		2.8	3.0
ホームタウンチーム支援事務	2.0					2.0	1.1
施設整備事務	0.4					0.4	0.8
スポーツ振興事務	8.3			1.5		9.8	10.1
2023年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	2.0	0.0	15.0	15.0
2022年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	2.0	0.0	15.0	

6.個別分析

▽有形固定資産減価償却率の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆「週1回以上スポーツをする市民の割合」は、働き盛り世代・子育て世代がリモートワークの影響を受け、時間に余裕が生まれたことから、2021年度まで上昇傾向にありましたが、2022年度以降は、リモートワーク実施の減少に伴い、スポーツをする時間も減少しています。◆ホームタウンチームの紹介・試合結果等について広くPRしました。◆まちだサポーターズが設立10周年を迎え、認知度が向上したことに伴い、依頼や相談件数が増加しています。◆「する」「みる」「支える」に関わった市民の割合は2022年度に比べ2.1ポイント増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆2023年度は、(仮称)町田木曽山崎バラアリーナの整備に関する委託を新たに締結したこと等により、物件費が35,705千円増加しており、行政費用の56.9%を物件費が占めています。◆ホームタウンチーム支援の充実を図り、ホームゲーム年間観戦者数は185,361人で、2022年度の88,109人と比べて97,252人増加しています。当該事業に関わる人員は1.1人から2.0人に増加していますが、「J1昇格報告会」や「Fリーグ2023ディヴィジョン1ファイナルシーズン町田ラウンド」等に係る臨時的な要素と捉えています。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆スポーツ施設でラスポーツ機会だけでなく、忙しい働き盛り・子育て世代の方でも取り組みやすい、時間や場所を問わないスポーツ機会の提供をしていく必要があります。◆ホームゲーム年間観戦者数をさらに増やすためには、より一層認知度を向上していく必要があります。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」の活動延べ人数は3,384人で、2022年度と比べて784人増加しています。引き続き、スポーツへの関心やボランティア機運・モチベーションを維持していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆出張形式のスポーツ教室実施など、忙しい世代でもスポーツに取り組めるきっかけづくりをしていきます。◆各ホームタウンチームと協力し、試合情報や活動紹介等のPR活動を継続していきます。◆市民ボランティア「まちだサポーターズ」が、継続して活動を広げていけるように支援していきます。	◆「町田市スポーツ推進計画19-28後期アクションプラン(2024年度~2028年度)」を実行し、多様なスポーツ機会を提供することで、市民のスポーツ実施率及び「する」「みる」「支える」でスポーツに関わる市民の割合向上を目指します。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	体育館事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	町田市立総合体育館の施設と、附属設備の維持管理を適切に行います。 市民が気軽にスポーツに親しめるよう、スポーツを「する」場・「みる」場を提供します。					
基本情報	根拠法令等	町田市体育施設条例				
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立総合体育館
	利用料金収入 (単位:千円)	64,647	82,235	92,644	建設年月日	1990年9月1日
	受益者負担比率	12.6%	15.7%	18.3%		
					有形固定資産減価償却率	2021年度 66.3% 2022年度 68.6% 2023年度 70.8%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、減少した施設利用者数の回復に向けて、継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を創出することで、スポーツに親しむ機会を拡充していく必要があります。
- ◆建設から30年以上が経過し、躯体や諸設備等が老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、引き続き、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、適宜、修繕等を施し、躯体や諸設備の維持保全を図る必要があります。
- ◆継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を提供するため、大規模改修等の実現に向けた検討を進めていく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

取組状況	短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
	◆SNSを活用したスポーツ情報発信に併せ、大会やイベントの開催等、積極的に事業展開することで、施設利用者や施設利用率の向上を図ります。 ◆施設を安全・安心に利用できるよう、引き続き、優先度の高い順に適宜、修繕等を施し、維持保全を図ります。また、継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を提供するため、大規模改修等の実現に向けた検討を進めます。		◆「町田市スポーツ推進計画19-28」の基本目標を具現化するため、施設の大規模改修等を行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。また、工事期間中にあっては、関係各所やホームタウンチーム等と連携・協力しながら、スポーツを「する」場の環境確保に努めます。	
	○ ◆SNSやHPを活用した情報発信を行うとともに、各種大会や興行・イベントを開催し、加えて、新たに教室事業を展開する等、積極的に事業を推進したことにより、施設利用者数及び施設利用率が向上しました。 ◆躯体の一部や諸設備について、適宜、応急対応や修繕等を施し、施設利用者の安全性と利便性の維持・向上を図りました。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	430,000	436,000	437,000	-	437,000	一般利用者のほか、大会参加者や観客、各種事業参加者を含む
		実績	228,822	305,892	342,097	-	(2023年度)	
施設利用率	%	目標	93	94	95	-	95	メイン及びサブアリーナ・小体育室・武道場・和洋弓場の平均利用率
		実績	92	92	94	-	(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆各種大会や興行・イベントの開催のほか、新たな教室事業を展開したこと等により、2022年度に比べ、施設利用者数が36,205人(+12%)増加しました。
- ◆施設の大規模改修等の実現に向けて、スケジュールや採用手法、設備の維持保全等の具体的な検討を進める一方で、施設利用者の利便性が低下しないよう、既存空調設備の故障等に伴う応急対応としてスポットクーラーを設置したほか、空調設備や消防設備等を適宜、応急修繕し、施設の維持・保全を図りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	3,993	4,273	5,465	1,192	地方税	0	0	0	0
物件費	247,616	264,547	266,609	2,062	国庫支出金	8,222	0	0	0
うち委託料	244,578	261,435	263,461	2,026	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	5,537	5,229	7,336	2,107	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	8,222	0	0	0	その他	0	0	0	0
減価償却費	169,003	169,003	169,003	0	行政収入 小計(a)	8,222	0	0	0
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 427,791	△ 443,924	△ 449,879	△ 5,955
賞与・退職手当引当金繰入額	1,642	872	1,466	594	金融収支差額 (d)	△ 65	△ 54	△ 44	10
行政費用 小計 (b)	436,013	443,924	449,879	5,955	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 427,856	△ 443,978	△ 449,923	△ 5,945
特別費用 (g)	105	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 105	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	△ 427,961	△ 443,978	△ 449,923	△ 5,945

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 260,161千円 室内競技多目的表示システム賃貸借料 3,039千円 スポットクーラー設置等業務委託 1,726千円 など	決算額の主な内訳	メインアリーナ等改修工事 3,054千円 冷却水ポンプ分解整備修繕 1,298千円 泡消火設備一斉開放弁修繕(第二駐車場) 979千円 など
主な増減理由	既存空調設備の故障等に伴う夏期の応急対応として、スポットクーラーを設置したことにより、1,726千円増加 など	主な増減理由	総合体育館メインアリーナの改修工事により、3,054千円増加。 総合体育館の冷却水ポンプ分解整備修繕を行ったことにより、1,298千円増加 など
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
総合体育館利用者1人あたりコスト	人	2023	342,097	1,315	△ 136	施設利用者数が増加したことにより、1人あたりのコストが136円減少しました。
		2022	305,892	1,451	△ 454	
		2021	228,822	1,905	△ 472	
延べ床面積1㎡あたりのコスト	㎡	2023	24,767	18,164	240	施設の老朽化に伴う設備の大規模な修繕件数の増加により、行政費用が増加したため、1㎡あたりのコストが240円増加しました。
		2022	24,767	17,924	319	
		2021	24,767	17,605	△ 425	

④貸借対照表

(単位:千円)

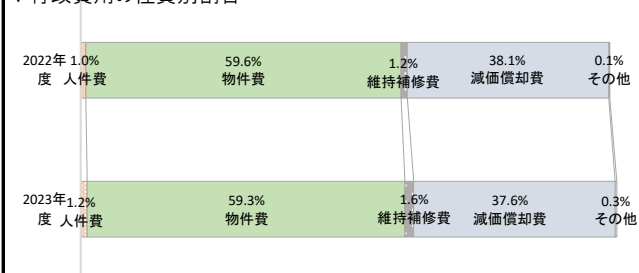
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			4,888	4,988	100	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			4,498	4,509	11	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		3,101,577	2,932,574	△ 169,003	賞与引当金			390	479	89	
		土地		764,504	764,504	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		7,265,548	7,265,548	0	固定負債			22,711	18,898	△ 3,813	
		建物減価償却累計額		△ 5,024,993	△ 5,185,783	△ 160,790	地方債			18,670	14,161	△ 4,509	
		工作物(取得価額)		123,121	123,121	0	退職手当引当金			4,041	4,737	696	
		工作物減価償却累計額		△ 26,603	△ 34,816	△ 8,213	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			27,599	23,886	△ 3,713	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			3,073,978	2,908,688	△ 165,290	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
工作物減価償却累計額			0	0	0								
建設仮勘定			0	0	0								
その他の固定資産			0	0	0	純資産の部合計			3,073,978	2,908,688	△ 165,290		
資産の部合計				3,101,577	2,932,574	△ 169,003	負債及び純資産の部合計		3,101,577	2,932,574	△ 169,003		

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)
決算額の主な内訳	総合体育館土地 764,504千円	総合体育館建物 7,265,548千円	大型映像装置 117,700千円 大型懸垂幕掲出装置 3,224千円 ゆりーとモニュメント時計塔 2,197千円
主な増減理由	増減なし	減価償却により、160,790千円の減少。	減価償却により、8,213千円の減少。

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



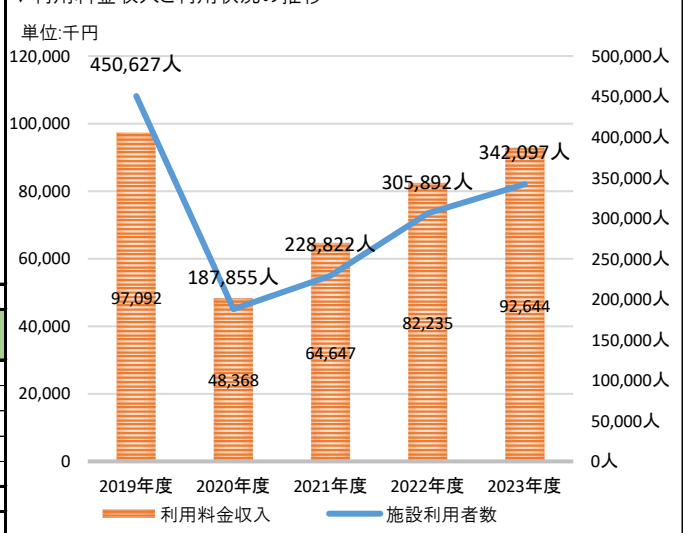
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	総合体育館管理事務	0.6					0.6	0.6
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6
2022年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆団体や個人のスポーツ活動の機会が増加傾向を示している状況下において、各種大会や興行・イベントを開催したほか、新たな教室事業を展開したこと等により、2022年度と比較して、施設利用者数が36,205人(+12%)、利用料金収入は10,409千円(+13%)増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆日常的な業務に加え、第5期の指定管理者選考にかかる業務が生じたものの、前期の選考にかかる手続きの流れ等を振り返り、また、参考にしながら、業務を遂行したことにより、人員への大きな影響は生じませんでした。
◆躯体や設備等の老朽化に伴い、各種不具合が生じたものの、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、適宜、応急対応・修繕を行うことで、継続して、安全・安心に利用できる環境を提供しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を創出するとともに、利用者数の増加や施設利用率の向上に努める必要があります。
◆建設から30年以上が経過し、躯体や諸設備等が老朽化しているため、施設を安全・安心に利用できるよう、引き続き、関係部署や指定管理者と連携・協力しながら、適宜、修繕等を実施し、躯体や諸設備の維持保全に努める必要があります。
◆継続的にスポーツを「する」場・「みる」場を提供するため、大規模改修等の実現に向けて、より詳細な検討を進めていく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆各種情報媒体を活用した情報発信を行うとともに、各種大会や興行・イベントを開催することで、施設利用者数や施設利用率の向上を図ります。 ◆安全・安心な施設利用や継続的なスポーツを「する」場・「みる」場の確保に向けて、適宜、修繕等を実施します。◆大規模改修等の実現に向けて、詳細な劣化診断等を行い、施設整備の方向性を示します。	◆「町田市スポーツ推進計画19-28」の基本目標を具現化するため、施設の大規模改修等を行い、スポーツを「する」場・「みる」場の環境整備を進めます。また、工事期間中にあつては、関係各所やホームタウンチーム等と連携・協力しながら、スポーツを「する」場の環境確保に努めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	室内プール事業
事業類型	1.施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	室内プール(温浴施設を含む)の運営及び維持管理を適切に行い、市民が気軽にスポーツに親しみ、楽しむ場を提供します。					
基本情報	根拠法令等 町田市体育施設条例					
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	町田市立室内プール
	利用料金収入 (単位:千円)	47,058	64,156	79,189	建設年月日	1989年10月1日
	受益者負担比率	11.8%	13.2%	16.4%		
					有形固定資産減価償却率	2021年度 32.4% 2022年度 34.4% 2023年度 36.4%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆基本的な感染症対策を講じながら、継続的な施設利用を促すとともに、新規利用者を獲得するため、指定管理者と連携・協力しながら、魅力ある事業の企画・実施やイベントの開催等について、積極的に取り組んでいく必要があります。
- ◆室内プール棟と温浴施設棟との一体的な施設運営の実現に向けて、会議室やロビーのほか、温浴施設棟の多目的室で予約の無い時間帯が生じた場合に、自主事業やイベントを実施する等、施設を有効に活用していく必要があります。
- ◆より多くの方に、施設を利用してもらえるよう、利用者サービスの向上にむけた取り組みを検討・実施していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

取組状況	短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
	◆基本的な感染症対策を講じながら、利用者が安全・安心に施設を利用できる環境を整えます。 ◆指定管理者と連携・協力しながら、継続的な施設利用を促すとともに、新規利用者の獲得に向けて、利用者サービスの向上に資する事業の企画・実施やイベント開催等に取り組めます。		◆地域組織をはじめ、地域内の周辺施設と連携・協力し、また、周囲の自然環境を十分に活かしながら、引き続き、市民のスポーツ推進を図ります。	
	○ ◆利用者が安全・安心に過ごせるよう、基本的な感染症対策を講じながら、施設の管理運営を行いました。 ◆新規利用者やリピーターを獲得するため、季節に沿ったイベントや人気の教室事業を継続して行う等、利用者サービスの向上に努めました。 ◆地域に根差した施設運営を目指し、地域組織の代表者等で構成する協議会にて、定期的に意見交換を行う等、取り組みを進めました。			

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
施設利用者数	人	目標	136,540	202,500	235,915	248,160	248,160	プール、トレーニング室、浴室等の利用者数・大会参加者や事業の参加人数
		実績	137,780	208,325	262,811		(2024年度)	
自主事業参加者数	人	目標	10,350	19,300	24,667	31,310	31,310	施設を有効に活用するために実施する自主事業の参加人数
		実績	12,953	24,184	30,696		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆施設利用者数は、教室事業やイベント等を実施したことにより、目標値を26,896人(+11%)上回りました。また、2022年度実績と比べ、54,486人(+26%)増加しました。
- ◆自主事業参加者数は、新規の教室事業を実施するとともに、会議室やロビーで積極的に事業を実施した結果、目標値を6,029人(+24%)上回りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	5,137	2,621	3,412	791	地方税	0	0	0	0
物件費	208,612	287,362	289,461	2,099	国庫支出金	5,393	0	0	0
うち委託料	191,112	269,962	270,522	560	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	1,005	16,276	1,980	△ 14,296	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	5,393	0	0	0	その他	0	0	12	12
減価償却費	102,576	123,891	123,891	0	行政収入 小計(a)	5,393	0	12	12
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 318,432	△ 430,389	△ 419,692	10,697
賞与・退職手当引当金繰入額	1,102	239	960	721	金融収支差額(d)	0	△ 1,081	0	1,081
行政費用 小計(b)	323,825	430,389	419,704	△ 10,685	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 318,432	△ 431,470	△ 419,692	11,778
特別費用(g)	172	0	0	0	特別収入(f)	0	2,340	0	△ 2,340
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 172	2,340	0	△ 2,340	当期収支差額(e)+(h)	△ 318,604	△ 429,130	△ 419,692	9,438

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理料 270,522千円 施設利用者駐車場用地賃貸借料 11,574千円 室内プールタッチプレート賃貸借料 1,366千円 など	決算額の主な内訳	室内プール空調機交換修繕 1,980千円
主な増減理由	室内プールタッチプレートを新たに設置したことにより、賃借料が1,366千円増加 など	主な増減理由	施設設備修繕の減少により、14,296千円減少。
勘定科目	特になし	勘定科目	特になし
決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由		主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
室内プール及び温浴施設棟利用者1人あたりコスト	人	2023	262,811	1,597	△ 469	施設利用者が増加したことにより、1人あたりのコストが469円減少しました。
		2022	208,325	2,066	△ 284	
		2021	137,780	2,350	72	
延べ床面積1㎡あたりコスト	㎡	2023	10,239	40,991	△ 1,043	維持補修費が減少したことにより、1㎡あたりのコストが1,043円減少しました。
		2022	10,239	42,034	3,225	
		2021	8,344	38,809	969	

④貸借対照表

(単位:千円)

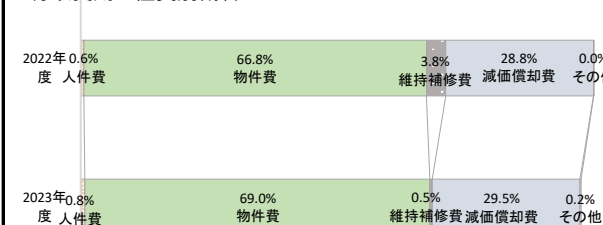
勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目			2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金		0	0	0	流動負債			62,753	62,872	119
	不納欠損引当金		0	0	0	還付未済金			0	0	0
	その他の流動資産		0	0	0	地方債			62,514	62,573	59
固定資産	事業用資産	有形固定資産	4,202,837	4,078,946	△ 123,891	賞与引当金			239	299	60
		土地	139,685	139,685	0	その他の流動負債			0	0	0
		建物(取得価額)	6,194,566	6,194,566	0	固定負債			998,631	936,537	△ 62,094
		建物減価償却累計額	△ 2,131,414	△ 2,255,305	△ 123,891	地方債			996,153	933,580	△ 62,573
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金			2,478	2,957	479
		工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債			0	0	0
		無形固定資産	0	0	0	負債の部合計			1,061,384	999,409	△ 61,975
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	純資産			3,141,453	3,079,537	△ 61,916
		土地	0	0	0						
		工作物(取得価額)	0	0	0						
		工作物減価償却累計額	0	0	0						
		無形固定資産	0	0	0						
		建設仮勘定	0	0	0						
		その他の固定資産	0	0	0	純資産の部合計			3,141,453	3,079,537	△ 61,916
資産の部合計			4,202,837	4,078,946	△ 123,891	負債及び純資産の部合計			4,202,837	4,078,946	△ 123,891

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	室内プール土地 139,685千円	室内プール建物 5,089,706千円 健康増進温浴施設建物 1,076,092千円 室内プールトップライト排煙窓 28,768千円	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により、123,891千円の減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



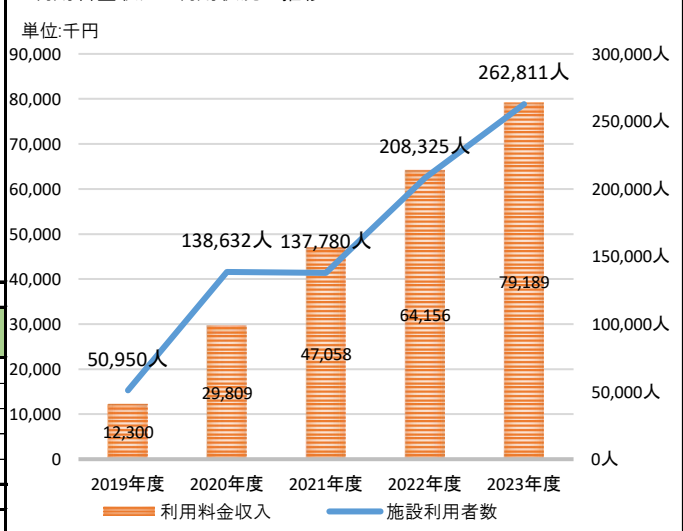
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023	2022
						合計	合計
室内プール管理事務	0.4					0.4	0.4
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
2022年度 特定事業 合計	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆プール棟(会議室を含む)やトレーニング室、また、温浴棟(多目的室を含む)において、季節に沿ったイベントや新規の教室事業等を積極的に実施したことにより、2022年度に比べ、利用料金収入が15,033千円(+23%)増加しました。
- ◆2023年度は大きな修繕が発生しなかったため、2022年度に比べ、維持補修費が14,296千円減少しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆地域団体等と連携・協力し、施設周辺の小学校や公園等で実施したイベントにおいて、ニュースポーツ(ボッチャやモルック)の普及活動とともに、施設のPRを行った効果もあり、施設利用者数は、2022年度に比べ、54,486人(+26%)増加しました。
- ◆夏期の長期学校休業の一部期間において、市内の小学生を対象にプールを活用した開放事業を実施し、スポーツを「する」場を提供するとともに、会議室を学習スペースとして開放する等、子どもたちの居場所づくりに取り組みました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆引き続き、施設で魅力ある事業やイベント等の実施を行うとともに、新たな利用者やリピーターの獲得に向けて、本施設に限らず、他施設との連携や周辺の自然環境を活かした事業を展開する等、地域資源を有効に活用していく必要があります。
- ◆利用率が低い諸室の有効活用に向けて、利用者のニーズに沿った取り組みを検討・実施していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆新規利用者やリピーターの獲得に向けて、他施設との連携や周辺の自然環境を活かした事業を展開し、地域資源を有効に活用します。 ◆指定管理者と連携・協力しながら、施設内の各諸室の有効活用に向けて、利用者のニーズに沿った取り組みを検討・実施します。	◆地域の住民や組織、また、他施設とも連携・協力しながら、周辺の豊かな自然環境を活かした事業やイベントを継続的に展開し、スポーツを通じた、地域の活性化に取り組みます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	屋外スポーツ施設事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	成瀬クリーンセンターテニスコート、三輪みどり山球場、緑ヶ丘グラウンドの施設及び附属設備の維持管理を適正に行い、市民が気軽にスポーツを楽しむ場を提供します。							
基本情報	根拠法令等 町田市体育施設条例							
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	30,294	30,903	28,318	建設年月日	—		
	受益者負担比率	35.5%	34.4%	30.2%		2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	40.8%	44.1%	47.4%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、利用率の向上にむけて、施設の利用環境の改善とともに、予約の無い時間帯の有効活用を図る必要があります。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、予約の無い時間帯を有効に活用した事業を展開し、引き続き、利用者を増加させる取り組みが必要です。
- ◆三輪みどり山球場では、新規事業の企画など、幅広い世代がスポーツに親しめる場を提供し、施設の認知度及び利用率を向上させる必要があります。
- ◆各屋外スポーツ施設の効率的かつ効果的な管理運営及び管理コストの縮減に向けた取り組みが必要です。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆各屋外スポーツ施設では、施設の特性に応じて、利用者ニーズに沿った魅力ある事業を企画・実施することで、利用者サービスの向上に努めます。		◆各屋外スポーツ施設の効率的かつ効果的な管理運営及び管理コストの縮減を図るため、施設の一括管理に移行します。	
◆緑ヶ丘グラウンド及び三輪みどり山球場では、施設の認知率及び利用率の向上のため、予約の無い時間帯を有効に活用した事業や魅力ある教室・イベントの実施に取り組めます。			
取組状況	○	◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、利用者のニーズに沿った延長貸出しや夏期期間の早期利用等、スポーツを「する」場を拡充しました。	
		◆緑ヶ丘グラウンドでは、予約の無い時間帯を地域のイベントに合わせて一般開放する等、施設の有効活用と認知度向上に努めました。	
		◆施設利用者の利便性の向上及び管理経費の縮減を図るため、体育施設の一括管理化に向けた事務手続きを進めました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
成瀬クリーンセンターテニスコート利用率	%	目標	93	94	95	-	95	一般利用・大会・教室・荒天等の貸出不可の場合を除きます。
		実績	94	93	89		(2023年度)	
緑ヶ丘グラウンド利用率	%	目標	71	71	71	-	72	一般利用を含み、荒天等の貸出不可の場合を除きます。
		実績	74	74	80		(2023年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートは、猛暑による利用者自身の活動自粛等により、目標値を6ポイント下回りました。
- ◆緑ヶ丘グラウンドは、施設利用者が安全・安心にスポーツに親しむことができる環境づくりに取り組んだ結果、目標値を9ポイント上回りました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目		2021年度	2022年度	2023年度	差額
			A	B	B-A				A	B	B-A
行政費用	人件費	2,753	2,945	2,498	△ 447	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	30,116	31,294	27,914	△ 3,380		国庫支出金	1,507	0	0	0
	うち委託料	30,090	30,206	26,068	△ 4,138		都支出金	0	0	0	0
	維持補修費	1,067	2,031	7,942	5,911		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	1,507	0	3,240	3,240		その他	0	0	0	0
	減価償却費	7,121	7,121	7,121	0		行政収入 小計(a)	1,507	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 42,526	△ 44,003	△ 48,934	△ 4,931
	賞与・退職手当引当金繰入額	1,469	612	219	△ 393		金融収支差額 (d)	△ 6	△ 7	△ 7	0
	行政費用 小計 (b)	44,033	44,003	48,934	4,931		通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 42,532	△ 44,010	△ 48,941	△ 4,931
	特別費用 (g)	60	0	0	0		特別収入 (f)	0	0	487	487
	特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 60	0	487	487		当期収支差額 (e)+(h)	△ 42,592	△ 44,010	△ 48,454	△ 4,444

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	指定管理委託料 26,068千円 成瀬クリーンセンターテニスコート駐車場精算機賃賃借料 1,820千円 など	成瀬クリーンセンターテニスコート建屋軒天他改修工事 6,375千円 成瀬クリーンセンターテニスコート人工芝部分修繕 1,441千円 成瀬クリーンセンターテニスコート管理棟軒天修繕 55千円 など
主な増減理由	緑ヶ丘グラウンドの指定管理委託料の減少により、4,138千円減少。 成瀬クリーンセンターテニスコート駐車場精算機の契約月数の増に伴い、賃賃借料が758千円増加。	成瀬クリーンセンターテニスコートにおいて、大規模な施設修繕件数が増加したことにより、5,911千円の増加。
勘定科目	補助費等	
決算額の主な内訳	成瀬クリーンセンターテニスコートの休場に伴う営業補償料 3,240千円	特になし
主な増減理由	成瀬クリーンセンターテニスコート改修工事に伴う休場期間中の利用料金収入を、営業補償料として補填したことにより、3,240千円増加。	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2023	130,930	374	57	施設利用者数が減少したことに加え、施設の大規模な修繕件数が増加したことにより、一人あたりコストが57円増加しました。
		2022	138,882	317	△ 6	
		2021	136,373	323	△ 123	
		2023				
		2022				
		2021				

④貸借対照表

(単位:千円)

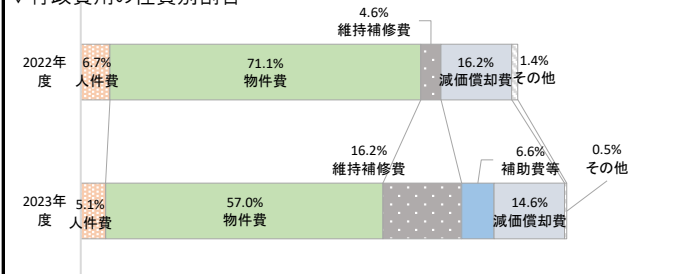
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			2,391	2,342	△ 49	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			2,122	2,123	1	
							賞与引当金			269	219	△ 50	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		119,757	112,636	△ 7,121	その他の流動負債			0	0	0	
		土地		0	0	0	固定負債			17,663	14,920	△ 2,743	
		建物(取得価額)		107,247	107,247	0	地方債			14,878	12,755	△ 2,123	
		建物減価償却累計額		△ 50,214	△ 53,602	△ 3,388	退職手当引当金			2,785	2,165	△ 620	
		工作物(取得価額)		107,016	107,016	0	その他の固定負債			0	0	0	
		工作物減価償却累計額		△ 44,292	△ 48,025	△ 3,733	負債の部合計			20,054	17,262	△ 2,792	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	純資産			99,703	95,374	△ 4,329	
		有形固定資産		0	0	0							
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
		工作物減価償却累計額		0	0	0							
		無形固定資産		0	0	0							
		建設仮勘定		0	0	0							
その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計			99,703	95,374	△ 4,329			
資産の部合計				119,757	112,636	△ 7,121	負債及び純資産の部合計				199,406	190,748	△ 8,658

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	テニスコート管理棟 53,300千円 緑ヶ丘グラウンド倉庫 37,017千円 など	緑ヶ丘グラウンド(機械) 32,553千円 テニスコート照明設備 22,746千円 など	特になし
主な増減理由	減価償却により、3,388千円の減少。	減価償却により、3,733千円の減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



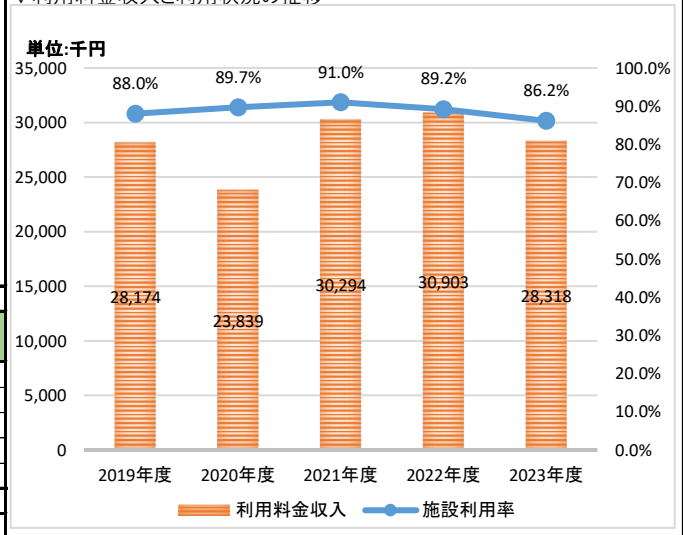
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	屋外スポーツ施設管理事務	0.3					0.3	0.4
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計		0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.4
2022年度 特定事業 合計		0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、利用環境の改善に向けて、人工芝の補修修繕を行い、利用者サービスの向上に努めました。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者からの意見を踏まえた利用環境の整備・充実やSNSによる情報発信等、利用者サービスの向上に努めた結果、施設利用率の目標値を9ポイント上回りました。
- ◆三輪みどり山球場では、一般利用のほか、新規事業やイベントを実施し、施設の認知度を高めるための取り組みを行いました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、2024年度からの体育施設の一括管理化に向けて、1年間指定管理期間を延長し、管理コスト等を見直したことにより、2022年度に比べて、指定管理料が4,138千円(△14%)減少しました。
- ◆2022年度と比べて、施設利用者数が三輪みどり山球場では、572人(+4%)、緑ヶ丘グラウンドでは2,485人(+18%)増加しましたが、成瀬クリーンセンターテニスコートでは、11,009人(△10%)減少したため、3施設の利用料金収入は、2,585千円(△9%)減少しました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、状況に応じた修繕を適切に行うことで利用環境を改善し、利用者サービスを向上させる必要があります。また、魅力ある教室事業及びイベントを企画・実施し、周知に努める必要があります。
- ◆緑ヶ丘グラウンドでは、地域に根差した施設を目指し、利用者のニーズに沿った事業を展開する等、引き続き、利用者を増加させる取り組みが必要です。
- ◆三輪みどり山球場では、施設の認知度及び利用率を向上させるため、魅力ある事業やイベント等の企画・実施が必要です。
- ◆各屋外スポーツ施設では、効率的かつ効果的な管理運営を行うとともに、利用者に影響が及ばないよう、引き続き、適切に修繕を行う必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆成瀬クリーンセンターテニスコートでは、安全・安心にスポーツ活動が行えるよう、引き続き、施設環境を整えるとともに、魅力ある教室事業及びイベント企画・実施に取り組みます。◆緑ヶ丘グラウンドでは、利用者のニーズに沿った事業の企画・実施に取り組みます。◆三輪みどり山球場では、魅力ある事業やイベント等の企画・実施に取り組みます。	◆市民が長きにわたり、スポーツに親しみ、楽しむことが出来るよう、適切に施設の修繕を行うとともに、各屋外スポーツ施設の特性を活かしたイベントや教室等を企画・実施し、利用率の向上に努めます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	学校施設開放事業
事業類型	1:施設運営受益者負担型		

1.事業概要

事業目的	市立小中学校の校庭、体育館、夏期学校プール開放、木曽中学校夜間照明設備、中学校温水プール(町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校)を夜間や休日など、学校の授業や部活動で使用していない時間帯を市民に開放し、市民のスポーツ活動を推進します。							
基本情報	根拠法令等	町田市立学校施設の開放に関する条例						
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	—		
	利用料金収入 (単位:千円)	5,545	7,426	8,264	建設年月日	—		
	受益者負担比率	9.3%	11.0%	13.0%		2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	100.0%	100.0%	100.0%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、備品の更新等を行う必要があります。
- ◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に施設を利用できる環境を整えるとともに、利用者のニーズに沿った事業等を実施していく必要があります。併せて、施設の周知方法や効率的な活用方法等を検討していく必要があります。
- ◆夏期学校プール開放事業は、実施方法やスケジュール等を見直し、安全・安心にスポーツに親しめる環境を確保していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

取組状況	短期的な取り組み(1~2年)				中長期的な取り組み(3~5年)			
	◆利用者が安全・安心にスポーツに親しむことができるよう、備品の更新や消耗品の購入等を行い、利用環境の向上に努めます。				◆学校温水プール開放事業は、関係各所と連携・協力しながら、効率的かつ効果的な運営に向けた、検討を進めます。			
	◆学校温水プール事業は、利用者ニーズを踏まえ、レッスン等を行います。							
取組状況	◆夏期学校プール開放事業は、感染症や熱中症、また、教職員や保護者の負担を考慮し、既存の屋内公共施設を活用した事業形態に移行します。							
	○ ◆体育館開放の老朽化したバレーボール支柱や温水プールのコースロープ等の備品の更新を行うことで、利用環境向上及び安全・安心なスポーツ機会の提供を図りました。							
	◆夏期学校プール開放事業は、実施方法等を変更のうえ、夏期プール開放事業として、既存の屋内公共プールを活用し、事業を実施しました。							

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
学校温水プール利用者数	人	目標	—	—	—	—	—	学校温水プールの利用者数
		実績	17,648	24,734	25,846	—	—	
木曽中学校夜間照明設備利用者数	人	目標	—	—	—	—	—	木曽中学校夜間照明設備の利用者数
		実績	8,387	11,696	12,673	—	—	

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆2022年度に比べ、学校温水プールの利用者数は、1,112人(+4%)、木曽中学校夜間照明設備の利用者数は、977人(+8%)増加しました。
- ◆学校温水プール開放事業では、利用者のニーズに沿って、無料レッスン・ワンポイントレッスンを実施しました。
- ◆夏期学校プール開放事業は、熱中症リスクの高まりや地域の人材不足等の課題を踏まえ、市内の各小・中学校の屋外プールを活用する実施手法から、夏期プール開放事業として、市立室内プール及び学校温水プール3校を活用する実施手法に移行しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	4,544	6,935	6,707	△ 228	地方税	0	0	0	0
物件費	54,047	56,292	56,127	△ 165	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	51,260	53,040	53,346	306	都支出金	0	0	0	0
維持補修費	0	2,838	0	△ 2,838	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	5,545	7,880	8,264	384
補助費等	128	158	160	2	その他	205	266	351	85
減価償却費	0	0	0	0	行政収入 小計(a)	5,750	8,146	8,615	469
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	△ 54,190	△ 59,427	△ 54,973	4,454
賞与・退職手当引当金繰入額	1,221	1,350	594	△ 756	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	59,940	67,573	63,588	△ 3,985	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	△ 54,190	△ 59,427	△ 54,973	4,454
特別費用 (g)	144	0	0	0	特別収入 (f)	0	0	672	672
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	△ 144	0	672	672	当期収支差額 (e)+(h)	△ 54,334	△ 59,427	△ 54,301	5,126

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	使用料及手数料
決算額の主な内訳	学校温水プール等総合管理業務委託 44,725千円 町田第一中学校外2校開放受付等業務委託 2,377千円 夏期プール開放事業受付及び監視業務等委託 4,040千円 など	決算額の主な内訳	学校温水プール施設使用料 7,758千円 木曽中学校夜間照明設備使用料 506千円
主な増減理由	2022年度まで所管していた、本町田後田グラウンドの管理引継ぎに伴い、光熱水費が348千円減少 など	主な増減理由	学校温水プール利用者数の増加により使用料が332千円増加。 木曽中学校夜間校庭照明設備利用者数の増加により、使用料が52千円増加。
勘定科目	維持補修費	勘定科目	
決算額の主な内訳	維持補修費 0千円	決算額の主な内訳	特になし
主な増減理由	施設設備修繕の減少により、2,838千円の減少。	主な増減理由	

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
利用者1人あたりコスト	人	2023	508,478	125	△ 22	利用者数が増加したことにより、1人あたりのコストが22円減少しました。
		2022	461,052	147	△ 47	
		2021	309,568	194	△ 22	
開放1日あたりコスト	日	2023	17,894	3,554	△ 462	開放日数が増加したことにより、使用料及び手数料が増加したため、1日あたりのコストが462円減少しました。
		2022	16,824	4,016	△ 2,242	
		2021	9,578	6,258	△ 292	

④貸借対照表

(単位:千円)

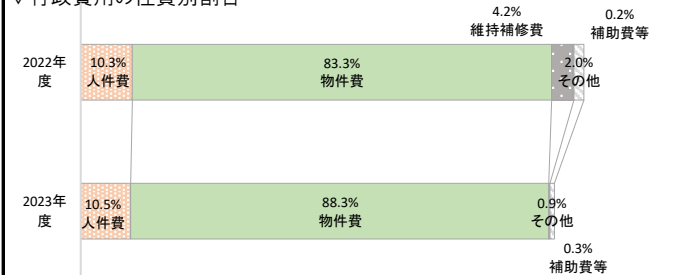
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			503	594	91	
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0	
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産		0	0	0	賞与引当金			503	594	91	
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0	
		建物(取得価額)		4,944	4,944	0	固定負債			4,883	3,967	△ 916	
		建物減価償却累計額		△ 4,944	△ 4,944	0	地方債			0	0	0	
		工作物(取得価額)		40,376	40,376	0	退職手当引当金			4,883	3,967	△ 916	
		工作物減価償却累計額		△ 40,376	△ 40,376	0	その他の固定負債			0	0	0	
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			5,386	4,561	△ 825	
		有形固定資産		0	0	0	純資産			△ 5,386	△ 4,561	825	
		土地		0	0	0							
		工作物(取得価額)		0	0	0							
建設仮勘定	工作物減価償却累計額		0	0	0								
	無形固定資産		0	0	0								
	建設仮勘定		0	0	0								
	その他の固定資産		0	0	0	純資産の部合計			△ 5,386	△ 4,561	825		
資産の部合計				0	0	0	負債及び純資産の部合計				0	0	

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	木曽中学校校庭開放管理棟 4,944千円	木曽中学校照明設備 40,376千円	特になし
主な増減理由	増減なし	増減なし	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合

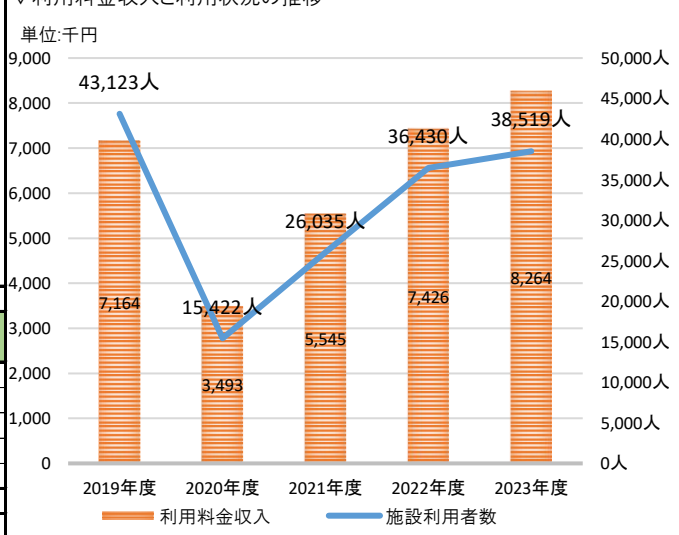


▽事業に関わる人員

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	学校施設開放事務	0.4			0.4		0.8	0.8
	夜間校庭開放事務	0.1			0.1		0.2	0.2
	学校温水プール開放事務	0.1			0.2		0.3	0.3
							0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計		0.6	0.0	0.0	0.7	0.0	1.3	1.3
2022年度 特定事業 合計		0.7	0.0	0.0	0.6	0.0	1.3	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆夏期学校プール開放事業は、実施方法等を変え、夏期プール開放事業として、既存の屋内公共プールを活用するかたちへ移行し、事業を実施したことにより、2022年度に比べて、委託料が306千円(+5%)増加しました。
◆学校温水プール開放事業及び夜間校庭開放事業は、利用者数が増加したことにより、2022年度に比べ、使用料及び手数料が384千円増加しました。(学校温水プール利用者数:1,112人(+4%)増加、木曽中学校夜間校庭照明設備利用者数:977人(+8%)増加)

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆各学校の屋外プールを活用した、夏期学校プール開放事業について、熱中症リスクの高まり、また、地域の人材不足等の理由により、既存の屋内公共プールを活用する、夏期プール開放事業へ移行することで、利用者の安全を確保するとともに、各学校のプール運営にかかる維持管理経費等の縮減を図りました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆学校施設開放事業のうち、体育館開放については、利用者が安全・安心にスポーツに親しめるよう、利用環境を整備していく必要があります。
◆学校温水プール開放事業は、安全・安心に利用できる環境を整えつつ、継続的に利用者のニーズに沿った取り組みを実施していく必要があります。
◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業を定着させ、安定的に運営していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆利用者が安全・安心にスポーツに親しみ、楽しむことができるよう、継続的に備品の更新や消耗品の購入等を行い、利用環境の改善に努めます。 ◆学校温水プール事業は、利用者ニーズに沿った取り組みを継続実施します。 ◆既存の屋内公共プールを活用した、夏期プール開放事業の利用者数の増加に向けた周知活動等を実施します。	◆学校教育に支障のない範囲において、市民に社会体育施設を開放することで、スポーツ活動を推進するとともに、地域コミュニティの活性化を図ります。

2023年度 事業別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	主管課名	スポーツ振興課
----	-----------	------	---------

歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	クラブハウス管理事業	事業類型	2:施設運営型
------	---------	-------	------------	------	---------

1.事業概要

市民が気軽にスポーツを楽しめる場として、学校等の施設開放はますます重要になっています。学校開放施設利用者の利便性を向上するため、更衣室やトイレを備えた管理施設(クラブハウス)を運営し、より多くの市民がスポーツに親しむことができる環境を提供します。

基本情報	根拠法令等	2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	クラブハウス(5箇所)		
					建設年月日	-		
						2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	20.7%	24.3%	27.8%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆学校施設開放の利用団体や地域住民等、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供するため、クラブハウスを活用した教室事業を実施していくほか、新たな生活様式に対応したスポーツ情報を発信していく必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆学校施設利用者の利便性向上を図るとともに、地域スポーツクラブによる教室事業の実施等により、既存のクラブハウスを活用し、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。		◆学校施設利用者の利便性向上を図るほか、地域スポーツクラブによる教室事業の実施を支援していくことで、引き続き、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。 ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」を踏まえた施設の活用方法について、検討していきます。	
取組状況	○ ◆市民の地域スポーツ活動の拠点の一つとして、学校開放や地域スポーツクラブによる教室事業・イベントを行いました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
開放施設利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	クラブハウスを設置した施設の開放利用者数(校庭・体育館・クラブハウス)
		実績	37,744	61,895	67,612			
地域スポーツクラブの会員数	人	目標	-	-	-	-	-	地域スポーツクラブの個人会員、団体会員、クラブ主催教室・イベントの参加人数
		実績	2,861	2,989	3,425			

②成果指標およびその他成果の説明

◆新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校開放施設利用者数が5,717人増加(+9.2%)しました。
◆新規の地域スポーツクラブの開設等により、地域スポーツクラブの会員数が436人増加(+14.6%)しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	920	1,112	1,723	611	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	8,596	11,142	11,478	336		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	8,233	10,526	11,039	513		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	0	0	1,553	1,553		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	2	4	2	△ 2
	減価償却費	5,962	5,962	5,962	0		行政収入 小計(a)	2	4	2	△ 2
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 16,232	△ 18,294	△ 21,356	△ 3,062
	賞与・退職手当引当金繰入額	756	82	642	560		金融収支差額(d)	△ 10	△ 8	△ 6	2
	行政費用 小計(b)	16,234	18,298	21,358	3,060		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 16,242	△ 18,302	△ 21,362	△ 3,060
特別費用(g)		10	0	0	0	特別収入(f)		0	24	0	△ 24
特別収支差額(f)-(g)=(h)		△ 10	24	0	△ 24	当期収支差額(e)+(h)		△ 16,252	△ 18,278	△ 21,362	△ 3,084

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	維持補修費	物件費
決算額の主な内訳	クラブハウス維持補修費 1,553千円	クラブハウス管理業務委託 10,767千円 光熱水費 282千円 クラブハウス機械警備委託 272千円 など
主な増減理由	七国山小学校クラブハウスの空調機修繕のため、1,553千円増加。	人件費の単価上昇等により、管理業務委託料が513千円増加。電力会社の変更により、光熱水費が152千円減少 など
勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳		
主な増減理由		

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
開放利用者1人あたりのコスト	人	2023	67,612	316	20	開放利用者数が増加したものの、維持補修費の発生に伴い行政費用が増加したことから、1人あたりのコストが20円増加しました。
		2022	61,895	296	△ 134	
		2021	37,744	430	△ 57	
開放1日あたりのコスト	日	2023	1,439	14,842	799	開放日数が増加したものの、維持補修費の発生に伴い行政費用が増加したことから、1日あたりのコストが799円増加しました。
		2022	1,303	14,043	△ 3,357	
		2021	933	17,400	7,457	

④貸借対照表

(単位:千円)

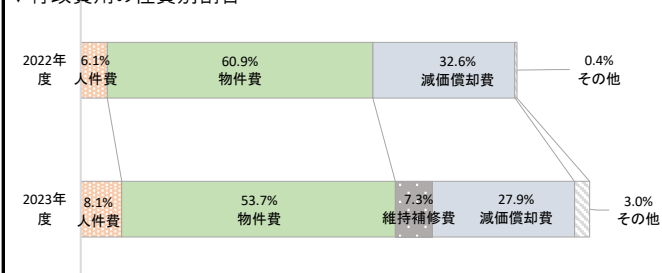
勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目				2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金			0	0	0	流動負債			2,160	2,232	72		
	不納欠損引当金			0	0	0	還付未済金			0	0	0		
	その他の流動資産			0	0	0	地方債			2,078	2,080	2		
固定資産	事業用資産	有形固定資産		127,842	121,880	△ 5,962	賞与引当金			82	152	70		
		土地		0	0	0	その他の流動負債			0	0	0		
		建物(取得価額)		168,787	168,787	0	固定負債			4,956	3,291	△ 1,665		
		建物減価償却累計額		△ 40,945	△ 46,907	△ 5,962	地方債			4,162	2,082	△ 2,080		
		工作物(取得価額)		0	0	0	退職手当引当金			794	1,209	415		
		工作物減価償却累計額		0	0	0	その他の固定負債			0	0	0		
	インフラ資産	無形固定資産		0	0	0	負債の部合計			7,116	5,523	△ 1,593		
		有形固定資産		0	0	0	純資産			120,726	116,357	△ 4,369		
	建設仮勘定	土地		0	0	0								
		工作物(取得価額)		0	0	0								
	その他の固定資産	工作物減価償却累計額		0	0	0								
		無形固定資産		0	0	0								
	資産の部合計				127,842	121,880	△ 5,962	負債及び純資産の部合計				127,842	121,880	△ 5,962

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)		
決算額の主な内訳	七国山小学校クラブハウス 52,923千円 南大谷小学校クラブハウス 46,481千円 町田第四小学校クラブハウス 36,510千円 など	特になし	特になし
主な増減理由	減価償却により、5,962千円の減少。		

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



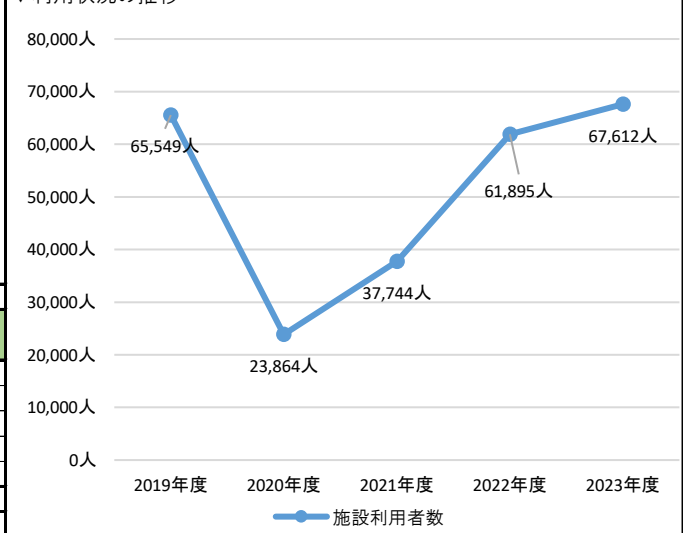
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
						合計	合計
クラブハウス管理事務	0.2			0.1		0.3	0.2
内訳						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
						0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計	0.2	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3	0.2
2022年度 特定事業 合計	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.2	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、施設の通常利用を再開した結果、学校開放施設利用者数が5,717人増加(+9.2%)しました。
- ◆施設の閉鎖が決定している地域スポーツクラブで会員数の微減はあったものの、新規の地域スポーツクラブの開設(132人)及び既存の地域スポーツクラブでの会員獲得(414人)により合計546名の増加があり、全体としては436人(+14.6%)増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆空調機修繕に伴う現場調査などの、通常業務以外の事務が発生したため、事業に関わる人員は2022年度に比べて0.1人増加していますが、クラブハウス利用者の熱中症予防及び体調管理のため、クラブハウス管理者として適切な現場環境を維持しました。また、施設の通常利用を再開した結果、2022年度に比べ、開放利用者数は増加し、新型コロナウイルス感染症拡大前と同水準となりました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆市民のスポーツ実施率向上のため、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していく必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆学校施設利用者の利便性向上を図るとともに、地域スポーツクラブによる教室事業・イベントの実施により、既存のクラブハウスを活用し、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。	◆学校施設利用者の利便性向上を図るほか、地域スポーツクラブによる教室事業・イベントの実施を支援していくことで、引き続き、より多くの方にスポーツに親しむ機会を提供していきます。 ◆「町田市新たな学校づくり推進計画」を踏まえた施設の活用方法について、検討していきます。

2023年度 事業別行政評価シート

部名		文化スポーツ振興部	主管課名		スポーツ振興課
歳出目名	スポーツ振興費	特定事業名	スポーツ広場事業	事業類型	2:施設運営型

1.事業概要

事業目的 地域住民のスポーツ振興及び健康増進のため、町内会・自治会、スポーツ団体等が、未使用の市有地又は民有地などをスポーツ広場として暫定利用する際に、市が必要な支援を行うものです。

基本 情報	根拠法令等							
		2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称	広場内トイレ(3箇所)倉庫(1箇所)		
					建設年月日	-		
						2021年度	2022年度	2023年度
					有形固定資産減価償却率	82.3%	84.3%	86.3%

2. 2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆スポーツ広場は、暫定的に利用している施設のため、位置付けを見直し、広く市民が利用できる施設にする必要があります。
- ◆大規模スポーツ広場は、恒久的にスポーツができる場として整備し、公園等のスポーツができる公の施設として条例に位置付ける必要があります。
- ◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開し、利用の拡大を図る必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1～2年)		中長期的な取り組み(3～5年)	
◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開します。		◆市有地(中小規模)や、民有地スポーツ広場については、市民がスポーツ広場を気軽に利用できるよう、各スポーツ広場の利用時間や利用方法等を公開していきます。	
取組状況	○	◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開しました。	

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
スポーツ広場団体利用者数	人	目標	-	-	-	-	-	スポーツ広場の団体利用者数
		実績	220,454	204,433	221,926			
スポーツ広場数	箇所	目標	-	-	-	-	-	スポーツ広場の数
		実績	22	22	22			

②成果指標およびその他成果の説明

- ◆各スポーツ広場の管理運営委員会は、利用者の安全性を確保しながら、各広場を運営しました。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴うスポーツ活動の増加などがあり、2023年度は2022年度に比べ、利用者が17,493人(8.6%)増加しました。
- ◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会と調整し、情報を公開しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A	勘定科目		2021年度	2022年度 A	2023年度 B	差額 B-A
行政費用	人件費	2,975	4,227	2,725	△ 1,502	行政収入	地方税	0	0	0	0
	物件費	3,428	4,363	4,137	△ 226		国庫支出金	0	0	0	0
	うち委託料	943	1,683	1,700	17		都支支出金	0	0	0	0
	維持補修費	791	599	802	203		分担金及負担金	0	0	0	0
	扶助費	0	0	0	0		使用料及手数料	0	0	0	0
	補助費等	0	0	0	0		その他	0	0	0	0
	減価償却費	323	323	323	0		行政収入 小計(a)	0	0	0	0
	不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0		行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 7,879	△ 10,984	△ 8,227	2,757
	賞与・退職手当引当金繰入額	362	1,472	240	△ 1,232		金融収支差額(d)	△ 28	△ 33	0	33
	行政費用 小計(b)	7,879	10,984	8,227	△ 2,757		通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 7,907	△ 11,017	△ 8,227	2,790
特別費用(g)		116	0	0	0	特別収入(f)		169	0	1,533	1,533
特別収支差額(f)-(g)=(h)		53	0	1,533	1,533	当期収支差額(e)+(h)		△ 7,854	△ 11,017	△ 6,694	4,323

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	維持補修費
決算額の主な内訳	光熱水費 1,460千円 剪定・除草委託料 1,404千円 施設原材料費 962千円 など	フェンス修繕(藤の台テニススポーツ広場) 660千円 水道管漏水修繕(金井スポーツ広場) 50千円 水道メーターバルブ取替修繕(山崎第二スポーツ広場) 92千円
主な増減理由	大規模な樹木剪定が発生しなかったこと等から、剪定・除草委託料が70千円減少 など	新たにフェンス修繕を行ったことにより、660千円の増加 など
勘定科目	特になし	特になし
決算額の主な内訳		
主な増減理由		

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
スポーツ広場利用者1人あたりコスト	人	2023	221,926	37	△ 17	スポーツ広場利用者数が増加したことに加え、行政費用が減少したことから、1人あたりのコストが17円減少しました。
		2022	204,433	54	18	
		2021	220,454	36	△ 72	
スポーツ広場1箇所あたりコスト	箇所	2023	22	373,955	△ 125,318	スポーツ広場数が変わらず、行政費用が減少したことから、1箇所あたりのコストが125,318円減少しました。
		2022	22	499,273	141,137	
		2021	22	358,136	△ 578,516	

④貸借対照表

(単位:千円)

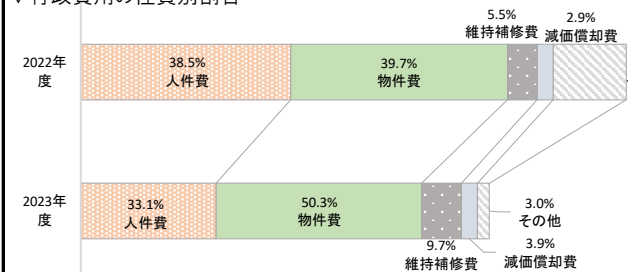
勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	366	240	△ 126
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0
固定資産	有形固定資産	1,000,540	1,000,217	△ 323	賞与引当金	366	240	△ 126
	土地	998,019	998,019	0	その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	16,064	16,064	0	固定負債	3,739	2,078	△ 1,661
	建物減価償却累計額	△ 13,543	△ 13,866	△ 323	地方債	0	0	0
	工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	3,739	2,078	△ 1,661
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	負債の部合計	4,105	2,318	△ 1,787
	インフラ資産	0	0	0	純資産	996,435	997,899	1,464
	建設仮勘定	0	0	0				
	その他の固定資産	0	0	0				
資産の部合計		1,000,540	1,000,217	△ 323	純資産の部合計	996,435	997,899	1,464
					負債及び純資産の部合計	1,000,540	1,000,217	△ 323

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	土地(事業用資産)	建物(事業用資産)	
決算額の主な内訳	山崎第二スポーツ広場用地806,105千円 金森中央スポーツ広場用地141,807千円 など	スポーツ広場トイレ(3箇所) 15,990千円 スポーツ広場倉庫(1箇所) 74千円	特になし
主な増減理由	増減なし	減価償却により、323千円の減少。	

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



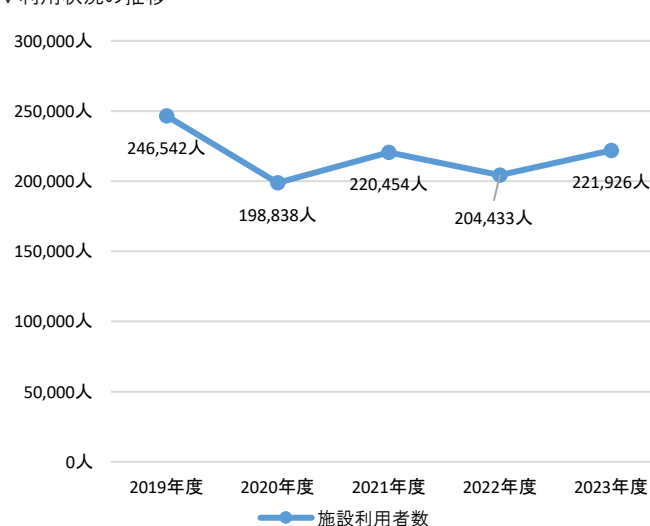
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容		常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
内訳	スポーツ広場事務	0.3			0.1		0.4	0.6
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
							0.0	0.0
2023年度 特定事業 合計		0.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	0.6
2022年度 特定事業 合計		0.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.6	

6.個別分析

▽利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

- ◆スポーツやボール遊びを行うことができる身近な公園や広場等を掲載したスポーツマップの作成・配布を通して、スポーツ広場の周知を図り、スポーツ広場団体利用者数は2022年度に比べて17,493人増加しています。
- ◆原材料の支給等、スポーツ広場の利用に際して必要な支援を行うことで、221,926人の利用に繋がりました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

- ◆スポーツ広場事務について、提出物の電子化等、事務の効率化を図ったことから、事業に関わる人員は2022年度に比べて、0.2人減少しています。
- ◆行政費用の50.3%を物件費が占めており、主な内訳としては光熱水費や剪定・除草委託料となっています。急激な支出の増加を招くことが無いよう、適切に管理していくことが求められます。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

- ◆市民が気軽に広場を利用できるよう、関係団体と調整し、利用の拡大を図る必要があります。
- ◆市民のスポーツ実施率向上のため、様々な媒体で広場の情報を周知する必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆団体利用がない時間帯に市民が気軽に広場を利用できるよう、管理運営委員会及び利用団体と調整し、適宜情報を公開します。 ◆スポーツマップや市HPへ広場の情報を掲載し、周知を図ります。	◆市有地(中小規模)や、民有地スポーツ広場については、市民がスポーツ広場を気軽に利用できるよう、各スポーツ広場の利用時間や利用方法等を公開していきます。

2023年度 課別行政評価シート

部名	文化スポーツ振興部	課名	国際版画美術館	歳出目名	国際版画美術館費
			事業類型	d:事業型(施設運営・受益者負担)	

1.組織概要

組織の使命	優れた美術作品に触れる機会、および学習、創作、発表を通して美術に親しむ機会と環境を提供します。また、貴重な文化財である版画作品を収集・保管し、市民の財産として未来に伝えます。				取 他 り 自 組 治 み 体 等 の	国際版画美術館は版画に特化した世界的にも珍しい美術館であり、版画の鑑賞ばかりでなく、版画制作や美術作品の展示といった利用も可能です。なかでも版画制作を行う版画工房を一般に開放している公立美術館は、近隣では横浜美術館のみですが、2021年3月1日から2024年3月14日まで改修工事のため休館していました。					
所管事務	◆美術作品等の収集、保管及び展示、講演会等の事業の企画及び実施に関すること。◆版画に関する専門的、技術的な調査研究及び情報の提供、美術に関する教育普及及び広報活動に関すること。◆市民の美術学習及び団体活動の援助、施設及び設備の貸出し及び維持管理に関すること。										
基本情報	根拠法令等 町田市立国際版画美術館条例										
				2021年度	2022年度	2023年度	施設の名称		町田市立国際版画美術館		
	利用料金収入（単位:千円）			20,210	20,253	22,491	建設年月日		1986年8月1日		
	受益者負担比率			5.9%	5.8%	6.5%			2021年度	2022年度	2023年度
							有形固定資産減価償却率		35.6%	36.9%	38.2%

2.2022年度末の総括と2023年度の状況

①「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆2021年度よりも来館者数が約42,000人増加しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準までは回復していません。今まで以上に幅広い層に魅力が伝わる展覧会を開催するほか、オンラインプレスリリースによる広報やSNSの積極的な活用など、様々な手法により国際版画美術館の魅力を情報発信し、来館者の増加につなげる取り組みが必要です。◆行政収入の増加に向けて、助成金などの積極的な獲得が求められています。◆多くの人に訪れてもらうため、美術館へのアクセス方法やキャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。

②「課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み」および取り組み状況

短期的な取り組み(1~2年)		中長期的な取り組み(3~5年)	
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、オンラインプレスリリースを活用するなど、引き続き来館者数の増加に向けた広報活動に取り組みます。◆大型企画展以外の展覧会を含めたすべてのシルバーデーで無料シャトルバスを運行いたします。		◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。	
取組状況	○ ◆X(旧Twitter)およびInstagramを活用し、SNSでの情報発信を2022年度374回から152回増やし、526回実施いたしました。◆企画展すべてでオンラインプレスリリースを活用いたしました。◆来館者の増加に向けた広報活動やシャトルバスの運行に取り組みました。展覧会開催中の土日祝およびシルバーデーを対象に56日運行し、延べ4,526人の利用がありました。		

3.事業の成果

①成果指標の目標と実績

成果指標名	単位	区分	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度目標	目標(達成時期)	成果指標の定義
国際版画美術館展覧会観覧者数	人	目標	93,000	96,000	110,000	93,000	93,000	企画展および特集展示の観覧者数の合計
		実績	93,170	108,844	119,027		(2024年度)	
観覧料、施設使用料、特別観覧手数料収入	千円	目標	22,000	22,500	22,500	25,947	25,947	企画展観覧料、施設使用料、特別観覧手数料の合計額
		実績	20,210	20,253	22,491		(2024年度)	

②成果指標およびその他成果の説明

◆2023年度は6件の企画展と5件の特集展示を開催しました。年間の展覧会観覧者数は、2022年度より約10,000人増加し目標を達成しました。また観覧料や特別観覧手数料などの収入も2,238千円増加しました。◆ミュージアムショップの取扱品目を増やし販売が好調だったこともあり、物品売払収入が2022年度より2,114千円増加しました。

4.財務情報

①行政コスト計算書

(単位:千円)									
勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額	勘定科目	2021年度	2022年度	2023年度	差額
		A	B	B-A			A	B	B-A
人件費	124,138	124,506	114,802	△ 9,704	地方税	0	0	0	0
うち時間外勤務手当	8,265	9,912	7,090	△ 2,822	保険料	0	0	0	0
物件費	131,841	146,216	156,089	9,873	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	96,711	105,864	108,283	2,419	都支支出金	0	0	0	0
維持補修費	2,623	3,345	5,102	1,757	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	20,210	20,253	22,491	2,238
補助費等	4,199	3,445	3,954	509	その他	9,486	11,696	13,711	2,015
減価償却費	56,285	56,285	56,285	0	行政収入 小計(a)	29,696	31,949	36,202	4,253
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	△ 313,568	△ 318,591	△ 309,976	8,615
賞与・退職手当引当金繰入額	24,178	16,743	9,946	△ 6,797	金融収支差額(d)	△ 214	△ 190	△ 167	23
行政費用 小計(b)	343,264	350,540	346,178	△ 4,362	通常収支差額(c)+(d)=(e)	△ 313,782	△ 318,781	△ 310,143	8,638
特別費用(g)	2,689	0	0	0	特別収入(f)	0	0	10,133	10,133
特別収支差額(f)-(g)=(h)	△ 2,689	0	10,133	10,133	当期収支差額(e)+(h)	△ 316,471	△ 318,781	△ 300,010	18,771

②行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	補助費等
決算額の主な内訳	総合管理委託料 77,054千円 光熱水費 13,727千円 備品修繕費 11,112千円 など	事業協力謝礼 1,777千円 講師謝礼 636千円 「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金 847千円 など
主な増減理由	光熱水費が4,988千円減少。備品修繕費が10,915千円増加 など	展示作品の出陳謝礼などにより事業協力謝礼が619千円増加。「ゆうゆう版画美術館まつり」負担金の返礼額減少により148千円増加 など
勘定科目	維持補修費	その他(行政収入)
決算額の主な内訳	雨水配管修繕 1,045千円 空調制御機器修繕 935千円 自動ドア及び扉交換修繕 813千円 など	物品売払収入 7,695千円 芸術文化振興基金助成金 3,000千円 受託販売収入 871千円 など
主な増減理由	高額な修繕対応が発生したことから1,757千円増加。	図録の販売強化により図録販売代が1,939千円増加 など

③単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
国際版画美術館年間入館者数1人あたりコスト	人	2023	171,406	2,020	△ 61	年間の入館者数が増加したため、入館者1人あたりのコストは2022年度よりも61円減少しました。
		2022	168,475	2,081	△ 644	
		2021	125,988	2,725	△ 407	
開館1日あたりコスト	日	2023	307	1,127,616	△ 17,940	人件費および賞与・退職手当引当金が減少したことから、1日あたりのコストが2022年度よりも17,940円減少しました。
		2022	306	1,145,556	△ 102,677	
		2021	275	1,248,233	△ 103,505	

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A	勘定科目		2022年度末 A	2023年度末 B	差額 B-A
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債		23,092	22,913	△ 179
	不納欠損引当金	0	0	0		還付未済金	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0		地方債	12,967	12,967	0
固定資産	有形固定資産	1,016,284	960,427	△ 55,857		賞与引当金	10,125	9,946	△ 179
	土地	0	0	0		その他の流動負債	0	0	0
	建物(取得価額)	2,258,181	2,258,181	0	固定負債		189,732	161,228	△ 28,504
	建物減価償却累計額	△ 1,504,909	△ 1,560,766	△ 55,857		地方債	86,308	73,342	△ 12,966
	工作物(取得価額)	263,012	263,012	0		退職手当引当金	103,424	87,886	△ 15,538
	工作物減価償却累計額	0	0	0		その他の固定負債	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0		負債の部合計	212,824	184,141	△ 28,683
	インフラ資産	0	0	0	純資産		2,520,916	2,499,522	△ 21,394
	土地	0	0	0					
	工作物(取得価額)	0	0	0	純資産の部合計		2,520,916	2,499,522	△ 21,394
	工作物減価償却累計額	0	0	0			2,733,740	2,683,663	△ 50,077
固定資産	無形固定資産	0	0	0					
	建設仮勘定	0	0	0					
その他の固定資産		1,717,456	1,723,236	5,780					
資産の部合計		2,733,740	2,683,663	△ 50,077					

⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	建物(事業用資産)	工作物(事業用資産)	その他の固定資産
決算額の主な内訳	美術館 2,258,181千円	屋外彫刻4点 263,012千円	収蔵美術品 1,623,236千円 定額運用基金 100,000千円
主な増減理由	減価償却により、55,857千円減少。	美術工芸品類は減価償却対象外資産。	収蔵美術品購入により2,709千円増加、受贈により3,500千円増加。

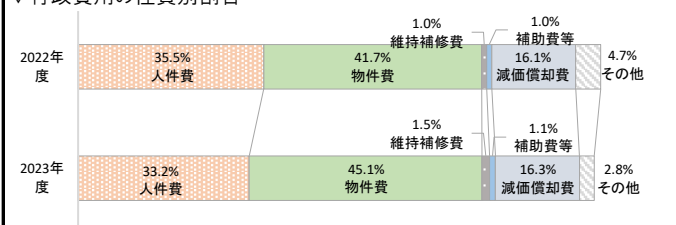
⑥キャッシュ・フロー収支差額集計表

(単位:千円)

勘定科目	金額	勘定科目	金額	勘定科目	金額
行政サービス活動収入	36,202	社会資本整備等投資活動収入	0	財務活動収入	0
行政サービス活動支出	295,644	社会資本整備等投資活動支出	2,709	財務活動支出	12,967
行政サービス活動収支差額(a)	△ 259,442	社会資本整備等投資活動収支差額(b)	△ 2,709	財務活動収支差額(c)	△ 12,967
				収支差額 合計 (a)+(b)+(c)	△ 275,118
				一般財源充当調整額	275,118

5.財務構造分析

▽行政費用の性質別割合



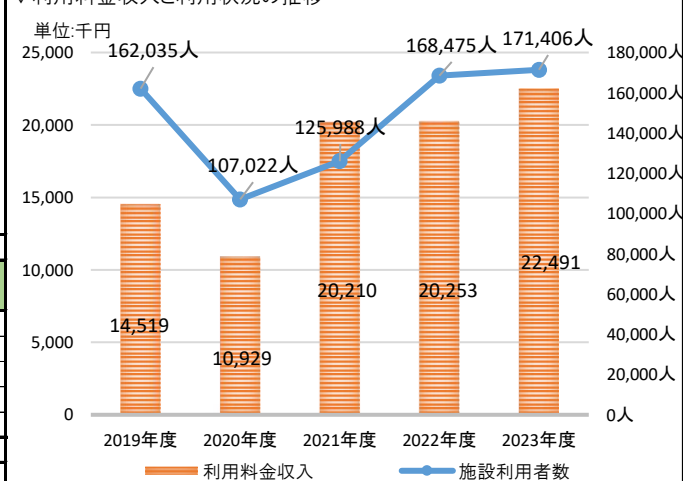
▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	会計年度 (業務)	会計年度 (補助)	2023 合計	2022 合計
管理事務	4.9	0.3	0.1	5.3	6.2		
展示事業	3.4	1.0		1.2	0.2	5.8	6.3
ハイビジョン事業						0.0	0.0
普及事業	2.7			0.7	0.6	4.0	4.2
						0.0	0.0
2023年度 歳出目 合計	11.0	1.0	0.0	2.2	0.9	15.1	16.7
2022年度 歳出目 合計	13.0	0.0	0.0	1.0	2.7	16.7	

6.個別分析

▽利用料金収入と利用状況の推移



7.総括

①財務情報・非財務情報に基づく有効性の分析

◆企画展においてYouTubeおよびニコニコ動画で著名な方と展示解説の対談を行うなど、多数の幅広い層に向けて版画に興味を持ってもらえるようプロモーション活動を行った結果、年間の展覧会観覧者数が約9%増加しました。

②財務情報・非財務情報に基づく効率性の分析

◆プロモーション活動等により、観覧料収入が12,518千円から15,176千円となり、2022年度に比べ約21%増加しました。
◆企画展の内容に合わせて発行した図録の売り上げが好評であったことに加え、過去に刊行した図録を購入しやすい価格で販売する企画を展開するなどして、図録販売代金は2022年度に比べ約46%増加、約193万円の増収となり、行政収入の増益及び適切な在庫管理につながりました。

③2023年度末の成果および財務の分析を踏まえた事業の課題

◆施設利用者数が2022年度よりも約2,900人増加し、新型コロナウイルス感染症流行前の活況に戻りました。SNSの積極的な活用などを通じて平素から美術に親しみのない層にも版画に興味を持ってもらい、国際版画美術館の魅力を情報発信して、来館者の満足につながる取り組みを図ることが肝要です。◆観覧料やミュージアムショップでの支払い等の利便を図るため、キャッシュレス決済の導入について検討する必要があります。◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想に基づき、より多くの方々に芸術に親しむを持ってもらえる施設にする必要があります。

④課題解決・目標達成に向けた今後の取り組み

短期的な取り組み(1~2年)	中長期的な取り組み(3~5年)
◆積極的にSNSを活用し幅広い層に情報発信を行うほか、収蔵品を活用した魅力ある展覧会になるよう取り組みます。◆キャッシュレス決済の導入により、施設利用者の利便を考慮した施設になるよう検討します。	◆芹ヶ谷公園“芸術の杜”構想を実現させ、(仮称)国際工芸美術館と連携した展覧会の実施や、新設される工房を活用した新たなプログラム等の実施を検討します。◆改修や修繕工事により老朽化した設備の更新やミュージアムショップの充実など、今まで以上に楽しめる美術館を目指します。

